

白亜の殿堂 セレブタリティ女学園物語  
シリーズー ヤカラの品格

## 第一部 セレブタリティ

学校の校庭で演劇の練習  
バリケードの上に立って叫ぶ演劇部員

紅葉 竜騎兵どもよ、良く聞け。たとえ最後の一人になろ

うとも、我等アベセーの友は、国家の自由と平等と  
博愛を守るため、この地を一步も退きはしないぞ。

スミレ アンジヨルラス。僕もここに残るよ。

紅葉 おお、同志グランテル。君は死を恐れないのか。  
スミレ 恐れるものか。

紅葉 頼もしき我が友。一緒に歌おう。

二人  
(赤い旗を振りながら歌う)

戦う者の歌が聞こえるか  
鼓動があのだらみと響き合えば  
新たに熱い命が始まる  
明日が来た時そうさ明日が

「レ・ミゼラブル 民衆の歌」

バリケードの外の竜騎兵

中原 ふん、ブルジョワ学生の青二才でもめ。プロレタリ

アの真似ごとなんぞしやがって。てめえらに何が  
分かる。これ以上のさばってると、蜘蛛の子よろし  
く蹴散らしてくれるわ。

バリケードから銃弾が飛んでくる

中原 もう我慢ができません。今から突入するぞ。突入します。

智子 お待ち下さい中原隊長。ただいま伝達兵がルイ・フィリップ国王へ突撃許可書を届けに行きますので。

中原 早く行かせろ。騎手は誰だ。

智子 マルセイユ一番のサラブレッド騎手アローズ少佐です。

中原 アローズ少佐のどこがマルセイユ一番の騎手なんだ。もっとまじな奴はいないのか。アイフォン中佐はどうした。

智子 前線で暴動を抑えています。

中原 そいつと変われ。騎手交換をしろ。騎手交換を。

智子 わかりました。騎手交換ですね。

中原

そうだ。騎手交換だ。

智子

つまりアローズと 아이폰の騎手交換をすれば

いいわけですね。

中原

くどいよ。さっさとやれ。

智子

(部下に向って)おい、アローズじゃだめだ。アイフォンと変われ。

中原

ちよっと待て。誤解が無いように断っておくが、俺

は何もアローズが劣っていると言ってる訳ではない

ぞ。十年以上俺の仕事の相棒として頑張ってくれた

んだ。多少動作の鈍い部分もあるが、パネル操作の

滑らかさや、スタイリッシュなフォルム等、気に入っ

てはいたんだ。

智子

隊長。いったい何に対するエクスキューズなんです

か。

中原

なんでもいい早く伝令を出せ。

智子

もう 아이폰が向っています。そろそろベルサ

イユ宮殿に着く頃です。あつ、宮殿から旗を振るのが見えます。突撃命令です。中原隊長。突撃命令の合図です。

中原 国王の命令だ。皆の者。突撃だ。突入しまーす。

竜騎兵ラッパの音と共にバリケードに突入。バリケード上のアンジョルラス、グランテール等の学生デモと激しい白兵戦を繰り広げる。

智子先生 はいはいそこまで、みんなご苦労さん。本番まであと少しよ。この調子で頑張っていきましょう。

中原理事長 (汗を拭う)

智子 中原理事長。ご協力ありがとうございます。

中原 いや：なんのなんの。部員が足りないとの事。私で良ければどんな役でも引き受けますよ。こう見えても若い頃は新鋭劇団で活動していたからね。

智子 台詞の一つ一つに重みがありましたわ。

中原 昔に戻った気分だよ。私はこれから、仕事が残っているんで、お先に職員室に戻らせてもらおうよ。

演劇部員 中原先生ありがとうございました。

中原退場

紅葉 酷かったわね。

スミレ 何が新鋭劇団よ。まるつきし棒読みだわ。

智子 あなた達、そんな事言わないの。中原理事長は世界

史の先生をしながらこの学園の理事長も兼ねている  
お忙しい身でありながら引き受けてくださったのよ。

スミレ でも智子先生。あんなヘッポコ演技じゃ学園祭の  
レ・ミゼラブルが台無しだわ。本番までにもっと

まともな芝居ができる人を見つけないと。

智子 そうよね。あれじゃ、文字通りレ・ミゼラブル…

紅葉

つまり惨めな芝居になっちゃうわね。

学園祭までに桜部長が戻ってきてくれればいいんだけど。アンジヨルラス役も、私じゃなくて桜部長が演じるべきだわ。

智子

あら、ミス紅葉。あなたの演じるアンジヨルラスも、さまになってたわよ。

紅葉

お褒めいただき光栄ですが、智子先生。桜部長は演劇の神から授けられた才能の持ち主です。私など到底ありません。

智子

努力に勝る才能なんてないわよ。ミス紅葉。本番はあなたがリーダーとなって演劇部を牽引していかなくちゃ。それこそ革命家の青年リーダーアンジヨルラスのように。ミスミレのグランテール役も良かったわよ。学園祭まで、このメンバーで頑張りましょう。お二人ともよろしくって。

二人

はい。智子先生。

智子

それにしても、ミス桜はどうしたのかしら。文化祭でレ・ミゼラブルを演じるのを楽しみにしていたのに。

スミレ

先生。ミス桜は、もう学校には戻ってこないんじゃないかしら。

智子

あら、どうしてそんな事言うの。ミススミレ。

スミレ

だって、ねえ。(紅葉と顔を見合わせる)

智子

何だか二人ともへんよ。ミス桜について何か知っているなら、教えてちょうだい。

紅葉

あの、実はミス桜のお家は事業が上手くいかなくて、破産寸前らしいんです。

智子

そうなの。それであの子、思い悩んで学校に来なくなったのかしら。かわいそうに。

スミレ

先生、あまりミス桜に関わらない方がいいわ。

智子

なぜ。

紅葉

先生知らないの。ミス桜のお家は、表向きは映像

製作会社ってなってるけど、本当はヤクザのフロン

ト企業だって

噂よ。

智子

そんな話初めて聞いたわ。でもあなた達、あまり友達  
達の陰口を言わない方がいいわ。ミス桜に失礼よ。

二人

はい、先生わかりました。

智子

すっかり暗くなっちゃったわね。

紅葉

ミスメランコリーがでると怖いわ。

智子

ミスメランコリー？なんなのそれ。

スミレ

学校中で噂になってるんです。暗くなった校内を

青いドレスを着た赤毛の女の子の幽霊が歩き回って、

誰かを探し回ってる様に憂いに満ちた表情で、

とても悲しげに見えるの。

紅葉

私達、彼女にミスメランコリーって名前をつけてあ

げたの。

智子

素敵な名前ね。きっとその幽霊も、喜んでくれるわ。

でも、幽霊がでたら、不用意に近づいちゃだめよ。

気をつけて帰りなさい、いいわね。ごきげんよう。

二人　ごきげんよう。智子先生。さようなら。

## 二人退場

智子　もうこんな時間だわ。尚史さんきつと夕飯食べずに待ってるわ。

木の陰にミス桜がいる。

智子　そこにいるのは誰。あ、ミス桜ね。そこで何してるの。ちよっとお待ちになってミス桜。

桜逃げるように立ち去る。

智子　何か悲しげな顔でこっちを見てたわ。父親の事業

が上手くいってないとか言ってたわね。きっと学校に来たくても来れないんだわ。可哀想なミス桜。何とか力にならないかしら。

## 暗転

## ナレーション

関西屈指の高級住宅街、北阪神鈴姫台。豊かな自然と瀟洒な屋敷に囲まれた鈴姫台の丘の上に、まるで住宅街を見晴らすかのごとく燦然とそびえ立つ白亜の殿堂。鈴姫台セレブタリティ女学園。この物語では一九八七年まで実在した格式と伝統を重んじる当学園について当時の資料を元にできるだけ詳細に書き記す事にした。なお、本日御覧いただいた皆様方が鈴姫台セレブタリティ女学園について、インターネット及びその他あらゆる情報媒体を駆使してその

存在を白日の元に曝そうとしても、徒勞に帰すであ  
るう事を予めご忠告申し上げよう。なぜなら、鈴姫  
台セレブタリティ女学園、そこは神秘のベールに包  
まれし白亜の殿堂。到底私達一般人にはうかがい知  
る事など出来ない秘密の花園なのだから。

## 尚史「ひさし」と智子の家

### 尚史

（自分宛ての数枚の手紙を読む）誠に残念ではござい  
ますが、今回はご希望に沿いかねる結果となりました。  
（溜息をつく。次の手紙を読む）応募書類を元に  
慎重に専攻した結果…誠に残念ではございますが、  
今回はご希望に添えない結果となりました。（次の  
手紙を読む）選考内容を踏まえ、慎重に考慮いたし  
ましたが、…今回はご期待に添いかねる結果となり  
ました。（手紙をクシャクシャに丸めて部屋の片隅

の棚の上に置く)

智子 ただいま。尚史さん遅くなってごめんなさい。

尚史 おかえりなさい。智子さん、いつも演劇部の指導

で大変だね。疲れただろう。

智子 ええ、とっても。学園祭まであと少しだから部員も

私も頑張らなくっちゃ。

尚史 無理しすぎ無いようにね。ほら、夕飯が出来てるよ。

智子 私、もうお腹ペコペコよ。手を洗ってくるわ。

く 智子の背後に青いドレスを着た赤毛の女の子の幽霊が歩

智子 (気配に気づき振り向く、誰もいない) 尚史さん今私

の後ろにいた。

尚史 いや、僕はずっとここにいたよ。

智子 変ね。さっき確かに後ろを誰かが通ったような気が

するんだけど。(棚の上に丸めた封筒が数枚あるのに気付く。拡げて読んでみる)

尚史

きつと疲れてるんだよ。さ、ご飯を食べよう。

智子

そうね、すぐ行くわ。(封筒を元の場所に戻して食卓へ行く)ところで尚史さん。新しい就職先は見つかった。

尚史

うん。何校か、ウチの学校に来てほしいって依頼の手紙は届いてるんだ。美術教師の人員は、どこの高校も不足しているからね。でも、まあ慎重を期すため、もう少し考えてからにするよ。

智子

尚史さんの納得するようにすればいいわ。

尚史

すまないね。智子さん。結婚を間近に控えて物入りな時に、僕が無職になってしまつて。

智子

尚史さんのせいじゃないわ。突然今年から美術の授業を取りやめたこの学校のせいよ。本来なら次の赴任先まで面倒をみるべきだわ。

尚史

まあ、美術は受験とは無縁だからね。本当は生きていく上で、とても大切なことを学べる教科なんだけど、植池校長の判断ならしかたがない。

智子

私から植池校長に抗議するわ。

尚史

いや、いいんだ。これは僕の問題だから、僕が何とかするよ。

智子

尚史さんがそう言うなら。私は黙っているわね。でも何か手助けできる事があったらいつでも言ってみてね。

尚史

ありがとう。今でも充分助けてもらってるよ。

智子

智子さんは、学園祭の演劇は、もう仕上がってるの。それがね、困ってるのよ。主役のミス桜が学校に来なくなっちゃって、他の子に主役をやってもらってるんだけど、なかなかミス桜のようにアンジョルラスの役を演じきれないのよ。

尚史

桜君か、そういえば近頃見ていないな。

智子

あら、尚史さん。ミス桜の事を知ってるの。

尚史

たまに、花壇の水やりを手伝ってくれるんだ。

智子

そうなんだ。そんな事をしてるとは知らなかったけど、優しい子なのね。今度またミス桜が水やりに

現れたら、私に知らせてちょうだい。

尚史

分かったよ、でもいったいなんで桜君は、学校を休んでるんだい。

智子

今日生徒に聞いたんだけど、お家の事業が上手くいってないらしいの。その事と関係があるのかもしれないわ。それと、帰り道でミス桜を見かけたのよ。木の

陰からこつちをじっと見てたわ。私、声をかけ

ただけど、逃げる様に立ち去って行ったの。

本当は学校に来たいのかもしれないね。もし、経

尚史

済的理由で学校に来れないんだったら、中原理事長

に相談すれば、確か特別支援制度があったはず。審査に受ければ授業料は免除されるはずだよ。

ありがとう。明日学校に行ったら聞いてみるわ。尚

智子

史

史さんは明日はアルバイトなの。

尚史

うん。芦屋の美術サロンで講師をしてる。報酬は低いけど、オーナーから、個展を開かせてやるって言われてるんだ。

智子

嘘、凄いじゃない尚史さん。画家になる夢がかなうのね。

尚史

大げさだよ智子さん。まだ決まった訳じゃないし。

智子

決まったら言ってね。私、尚史さんの才能を信じてるから。

暗転

理事長室

智子

榎本です。失礼します。

中原理事長 入りましたえ。

中原理事長と植池校長が向かい合って話をしている。隅っこのデスクで眼鏡をかけた女秘書森田が物言わずに座って帳簿をつけている。部屋の中は、鎧兜や、水墨画、西洋騎士の甲冑など、趣味の悪い骨董品が飾られている。しかも、和洋折衷統一性がない。

智子 あ、植池校長。いらしたんですか。何かお話し中で

したら、また時間をおいてから伺いましょうか。

植池 いや、いいさ智子ちゃん。直ぐに済むから。

中原 芋作君。智子ちゃんなんて呼び方はやめろ。榎本先生と呼びなさい。

植池 いちいちウザいんだよお前は。智子ちゃんでもいいじゃないか。なあ、智子ちゃん。

智子 ええ、私はどっちでも構いませんが。

中原 だめた。ここは学校なんだからね。親しき仲にも礼

植池

儀ありって言うだろ。それに、昨今話題のセクシャルハラスメントにも触れるしね。

セクシャルバイオレットって何だ。そんな言葉聞いた事もないぞ。

中原

たまには新聞でも読んだらどうだね。芋作君は校長先生なんだから。

植池

お前もたまには漫画でも読んで、現代の若者の気持ちというものを、少しは理解すればいいんだよ。それに従兄弟とはいえ仮にも俺は本学園の校長だぞ。

礼儀云々というのならお前こそ俺の事を子供の頃のように芋作と呼ばないでもらいたいね。

智子

お二人とも喧嘩なさらないで下さい。校長先生。セクシャルハラスメントっていうのは、異性に対して性差別的な事を言ったり、したりする事よ。

中原

アメリカでは既に裁判になっている。

植池

わかったよ。いちいちうるせえな。今後は気をつけ

るよ。

森田がお茶を運んでくる。

植池

鉄子ちゃんありがとう。相変わらずいいケツしてるね。旦那と別れて今は独身なんだってね。僕とつきあつてよ。

森田

(何も言わず無表情で退出)

中原

それを辞めろって言ってるんだよ芋作君。森田さんは、東神銀行から出向していただいてる監査役だよ。失礼だろ。

植池

冗談だよ。冗談。

智子

校長先生。理事長との話し合いはもう終わったんですか。

植池

おお、そうだ。実はねえ、とっておきの商売のアイデアを思いついたんだよ。

智子

またですか。(やれやれといった表情をする)

植池

今度こそ成功間違いなしさ。自信があるんだ。

中原

いつもそう言ってるじゃないか。この間の黒豆入りのミルクティー屋も全く話題にもならず、どれだけの損失が出たと思ってるんだ。

植池

黒豆じゃない。タピオカミルクティーだ。絶対に流行ると思ったんだけど、時代が俺についてきていなかったんだ。後三十年後には流行る気がするんだ。どうせだったら今流行る物を考えてくれないかな。

中原

ともかく、そのタピオカミルクティー屋の損失のせいで今年の修学旅行はハワイを取り止めて、城崎温泉日帰り蟹食べ放題ツアーに変更せざるをえなかったんだからね。

智子

え、そうだったんですか。

中原

生徒には黙っていてくれたまえ。

智子

わ：わかりました。

植池

商売に失敗はつきものさ。でも、お二人さん。これを見給え。(懐からカマボコ板のような金属製の物体を取り出してデスクの上に置く)こいつは絶対に大流行間違いないだ。いや：時代を変えって言っても過言ではない。

中原

何だよ。そのハンペンみたいな物は。

植池

中原

これは次世代型の携帯電話だ。須磨離宮ホテルでシリア系アメリカ人のバックパッカーから買ったんだ。名前は確かスティーブドボチヨンズって言ってたな。携帯電話なんてそんなものは、エリート気取りの成金社長か、ヤクザか、芸能人くらいしか持ってないぞ。僕達一般人には縁のないものだ。芋作君が知り合いの不動産屋から買ったのも、全然電波が繋がらないって言ってほとんど使ってないじゃないか。(机の下から、アタッシェケース型の大きな携帯電話を取り出してみせる)

植池

いや、これからの時代は、一人一台必ず持つようになる。断言してもいい。それにこの携帯電話が、既存の物と異なるのは、パーソナルコンピュータを内蔵している点だ。

智子

パーソナルコンピュータですって。

中原

そんな馬鹿な。こんな小さな携帯電話の中に、どうやってパーソナルコンピュータを入れてあるんだ。だいいちキーボードが無いじゃないか。

植池

これだからお前は頭が固いつて言われるんだ。何もパーソナルコンピュータを丸ごと入れてる訳じゃない。パーソナル：面倒なんでパソコンと略すことにするが、パソコンの機能を、この電話に搭載してるんだ。

智子

電子手帳のようなものですか。

植池

さすがは智子ちゃん。呑み込みが早い。

中原

芋作君の言いたい事は分かったが、そのおもちゃみ

植池

たいな携帯電話でいったい何ができるんだ。

こいつがあれば何でもできる。世界中の情報に瞬時にアクセスできるし、行政サービスや病院の予約、家に居ながら洋服も買える。映画やドラマも見放題。それに極めつけは、これを使えば、世界中の人々に、情報を発信する事ができるんだ。

中原

芋作君いいかい。行政サービスは役所に行って受ければいいし、洋服も店で買うよ。映画は映画館で皆んな観るよ。未来永劫ずっと皆そうするよ。極めつけの情報発信者になれるっていうのも、いったい誰がなりたがるんだ。そんな自己顕示欲の強い陰キャな奴は、舞台やドラマの脚本でも書いて雑誌に投稿すればいいんだ。

植池

おっ、お前にしてはいいアイデアだな。脚本やシナリオを投稿して、皆に読んでもらってランキングを表示したり、プロデューサーや演出家に投稿作品を

買ってもらうサイトを立ち上げれば、きっと上手くいくぞ。

智子  
ちよっと興味が湧いてきたわ。その機械があれば本も読めるのかしら。

植池  
もちろんこいつがあれば本も読めるんだ。もう重たい書籍を鞆に入れておく必要はない。これ一個で一万冊以上の本を空いてる時間に自由に読むことができる。空いてる時間に本が読めちゃう。そうだ、こいつの商品名をアイテルホンと名付けよう。

智子  
いっそのこと、略してアイホンにしちゃえば。  
いや、アイテルホンの方がしっくりくる。

植池  
芋作君。僕は忙しいんだ。言いたいことはそれで全てかい。だったらもう帰ってくれませんか。

植池  
いや、まだある。大切な事だ。  
中 原  
だったら先に言ってよ。つまらない事ばかり言っていないで。

植池

まあ、そうカリカリするなって。じつはね。やる事に決めたよ。学習塾の件。

智子

学習塾ですって。

中原

芋作君。まだそんな夢物語を描いてるんですか。学校が学習塾を経営するなんてありえないよ。

植池

いや、これからの時代はありえるね。なぜなら今後この国は人口が急激に減っていく。子供の数が増れば、この学園もいざれ定員割れを起こして学園が立ち行かなくなる。

中原

そんな馬鹿な事があってたまるか。毎年この学園にくる入学希望者は、定員の三倍だぞ。ここ数年でどんどん増え続けている。芋作君。いい加減現実をみるよ。

植池

現実を見なければならぬのは、お前のほうだ。中原、俺はもう手を打ってあるのだ。客人はいりまたまえ。

小肥りの男が入ってくる。

男 失礼いたしやす。

中原 誰かと思ったら、東神銀行の掛川課長。いつもお世話になってます。

掛川 いえいえ、とんでもない。こちらこそ。ウチの監査役の森田が世話になってます。（片隅のデスクで書類仕事を黙々とこなしている森田に目を向ける）

中原 今日はどのようなご用件で参られたのですか。

掛川 この度、鈴姫台セレブタリティ女学園様が三宮に学

習塾をお開きになるとの事、是非とも弊行でご融資させていただきたく相談に参りました。

中原 その件でしたら結構です。校長が勝手に言ってるだけですから。

植池 おい、失礼じゃないか。せっかく来ていただいたの

に。

中原 芋作君が勝手に呼んだんだろう。僕は学習塾を開く事を許可した覚えはない

植池 校長の俺が決めたんだ。

中原 最終決定権は理事長の僕にある。

智子 あの、校長と理事長ってどちらが偉いんですか。

植池 俺だ。

中原 僕だ。

掛川 あの、私はどうすれば良いのでしょうか。

中原 すみませんがお引き取り願えませんか。

植池 いや、残っていてくれ。中原、お前がいくら反対し

ようとも、もうプロジェクトは動きだしているんだ。

これを見る。(リモコンのスイッチを入れる)

壁一面の大型スクリーンに、CM映像が流れ出す。

神戸三宮に、新たな学習塾が誕生。セレブタリティゼミナール！最新式のパーソナルコンピュータを駆使した画期的な教育プログラムで、あなたの未来を全力サポート。全国から実力のある有名講師が一同に集結。セレブタリティゼミナール！入塾受付は九月一日から。セレブタリティゼミナール！今、君の未来が開かれる。

植池

智子

植池

（リモコンのスイッチを切る）

これ、なんなんですか。

テレビCMだよ。サンサンテレビの昼三時から毎日一回流れるんだ。だから今更塾を取り止める事なんて出来ない。もうプロジェクトは動きだしてるんだ。サイは投げられた。ってやつさ。

誰がこんな取り返しのつかない事をやったんだ。

掛川

中原

私です。融資先にCM制作会社がいてね。急遽作っ

てもらったんですよ。

中原 馬鹿。なんて事をしでかしたんだ。

植池 おい、よさないか。

智子 理事長、落ち着いて下さい。

中原 いっただいどうするんだ。私は知らんぞ。塾経営なん

て素人が手を出すもんじゃない。今からでも遅くない。サンサンテレビに電話して、CMを差し止めよう。

植池 無駄だ中原。既にCMは流れている。入塾希望者

からの問い合わせもたくさん受けている。

中原 いっただい、いくらかかるんだ。塾を開くのには。

掛川 見積もりでは4億8千万円です。

中原 4億8千万円だぞ芋作君。失敗したらどうするんだ。

植池 失敗なんてありえないよ。全国から有名講師を揃え

ただだぜ。お前は心配症だな。それに、俺だって

真面目にこの件に取り組んでいるんだ。昔と違って

ホステス通いもきっぱり辞めた。

銀行は本当に4億8千万も融資するのか。この学園に。

掛川 もちろんです。査定には、融資責任者の西井専務も立ち会ってもらいました。

中原 …

智子 理事長、こうなったら後には引けません。校長を信じて塾経営に突き進みましょう。

中原 仕方がない。

植池 そうこなくっちゃ。

掛川 早速西井専務に連絡を入れます。

植池 これを使いなさい。(次世代型携帯電話を渡す)西井専務には先月ゴルフに行った時に試作品の初号機を渡してある。

掛川 もしもし。西井専務ですか。

西井 何のようだね。

掛川

セレブタリティ女学園の融資の件ですが、確認のため電話させていただきました。

西井

(小声で)あの、世間知らずのボンクラ従兄弟が経営しているお嬢様学校の事か、それについては、ちょっとまずい事になってね。

掛川

どういうことですか、99%大丈夫だって言ってたじゃないですか。

西井

それが、融資審査で、塾経営に甘さがあるって待ったがかかったんだ。どうもミスアイロニーが関わっているらしい。

掛川

ミスアイロニーが、無情の冷酷審査員、東神銀行の影の実力者、その姿を見た者は誰もいないと言う謎の女。

西井

ともかく、俺も激甘融資の西井の異名を持つ男。何とかこの融資を通してみせる。植池校長はそこにいるのか。

掛川

はい、おりますが。

西井

ちよっと代わってください。

掛川

(電話を植池校長に渡す)

植池

これはこれは、西井専務。ご無沙汰しております。

西井

(受話器片手にペコペコお辞儀をする)

いえいえこちらこそ。相変わらずお盛んそうじゃないの、植池さん。新開地のナンシーちゃんという仲間だつて、バーキン買ってあげたそうじゃない。ナンシーちゃん喜んでたよ。

植池

いや、あの、それは…

中原

(蔑むような目で植池を睨みつける)

植池

そんな事より西井専務。塾開設の4億円融資の件

その後問題ありませんでしょうか。

西井

も、勿論ですよ。99%確実ですよ。

植池

それなら安心だ。やはり激甘融資の西井専務にお任せして良かったですよ。

智子　なぜ１００％確実って言わないんだろう。

西井　大船にのったつもりで安心してください。…ところで植池校長。この間ゴルフの時にいただいたこのアイテルホン、もう一つもらえないかな。凄く便利だ。気に入っていただけて光栄ですが、あいにく試作品が一つしか残ってないんですよ。

西井　１０万円出すよ。その試作品でいいんで売ってもらえないかな。

植池　１０万円ですか喜んで。お持ちいたします。

西井　それじゃあ今夜、いつもの時間に新開地のアルサ口で。ナンシーちゃん予約入れとくよ。

### 電話が切れる

植池　というわけで、融資の方は問題ない。これで納得しただろう。

中原 相変わらず新開地のアルサロには行ってるようだね。  
植池 それはだな、接待というやつだよ。お前みたいに綺麗事ばかりでは学校経営は成り立たんよ。と言う訳

で、俺はこれから新開地に接待に行ってくる。掛川さん行こう。(植池と掛川が退室しようとする)

森田 植池校長。

植池 どうしました。森田さん。

森田 そのアイテルホンっていう新型携帯電話、私にも売ってもらえませんか。

植池 この電話をかい。しかし残り一つしかない、しかも試作品だ。それををさっき君の上司の西井専務が10万円で買うと言ってきたのだよ。申し訳ないが売り切れだ。

森田 二十万円だすわ。  
植池 に：二十万円だと。

中原 森田さん、こんなおもちゃに二十万円とは、僕はお

勧め出来ません。

森田 西井専務には私から話をつけます。校長先生にご迷惑はおかけしません。(ハンドバッグから札束を取り出し、デスクの上に置く)

掛川 おい、森田君。ここは出向先だぞ。慎重給え。

森田 掛川さんには関係ありません。黙っていて下さい。分かった。森田さんがそんなに欲しいんなら売ってあげよう。西井専務には新しいのがもうすぐ手に入るからそれまで待ってもらうように、私から言うておくよ。

森田 ありがとうございます(また、何もなかったかのよう  
うにデスクで書類整理をする)

植池と掛川退場。中原と智子啞然とするが、中原が何かを思い出して智子に尋ねる。

中原

時に榎本先生、何か用事があって私に会いに来たのではないですか。

智子

あ、はい。実は理事長、ミス桜の事なんですがこの一週間程学校を休んでまして、保護者の方とも連絡がつかないんです。

中原

それは心配ですね。

智子

生徒達の話によれば、お父様の事業が最近上手くいってなくて、それを気に病んで学校に来ないんじゃないかと噂しております。

中原

資料によると、ミス桜のご実家は映像制作会社とありますね。

智子

ええ、表向きは普通の映像制作会社ですが…。

中原

表向きとは？

智子

いえ、何でもありません。

中原

(資料を見ながら)両親は離婚していて、父親の元で暮らしている…か、

智子 あの、理事長。ミス桜に授業料の特別免除申請を申

したてたいのですが。

中原 分かりました。早急に処理しましょう。ミス桜に授

業料の事は心配せずに今までどおり学校へ来るよう  
榎本先生から伝えてください。

智子 ありがとうございます。ミス桜、きっと喜ぶわ。失  
礼いたします。

智子退室

暗転

校庭にある花壇

智子 (歩きながら) 塾経営なんて上手いくのかしら。ま

あ私が心配したって仕方がないんだけど。あ、あそ

尚史　こにいるのは尚史さんだわ。

尚史　（花に水をやっている）

尚史先生。

智子　ミス桜だわ。いったいどうしたのかしら。（物陰

に隠れる）

尚史　桜君か、こんにちわ。

桜　こんにちわ尚史先生。水やり手伝うわ。

尚史　ありがとう桜さん。ただ僕はもう先生じゃないよ。

尚史　美術のクラスは今年からなくなっただ。

桜　じゃあ、尚史先生は今何をしているの。

尚史　ご覧の通りお花の水やり係さ。でもそれだけじゃ生

活が出来ないから芦屋の美術サロンで講師をしてい

る。今そのオーナーが、僕の個展を開く計画をた

ててくれてるんだ。

桜　先生凄いじゃん。先生の描く絵素敵だから、個展を

開けば大人気になると思うわ。私見に行くわね。

尚史

ありがとう桜君。

桜

(ジヨウ口で花に水を撒く)

尚史

あの、桜君。ずっと学校を休んでいるんだってね。

桜

(無言で水を撒く)

尚史

悩みがあるんなら、僕で良ければ相談にのるよ。

桜

…。

尚史

僕に話しづらい事なら、君の担任の智子先生に話せばいい。力になってくれるはずだ。

桜

(消え入りそうな小さな声で)ありがとう…ごさいます。

尚史

さ、もうこんな時間だ。君もお家に帰りなさい。

桜

尚史先生。…私、もう耐えられません。(シクシク

と泣きはじめる)

尚史

どうしたんだい、いったい。

桜

(しゃがみこんで泣き続ける)

尚史

弱ったな。(途方にくれる)お父さんのお仕事が、上

桜

手くいってないそうだね。ひょっとしてその事に氣を病んで学校に来ないのなら、心配しなくていい。智子先生が、今日理事長に君の授業料の免除申請を申し込んだから。

尚史先生。私、尚史先生のことか…

智子が隠れていた草むらから姿を現す。

智子

あら、尚史さんにミス桜じゃない。どうしたの、こんなところで。

尚史

あ、いや、桜さんが、花の水やりを手伝ってくれていたんだ。

智子

あら、そうなの。ミス桜もういいわ。ご苦勞様。あとは私と、私のフィアンセの尚史さんの二人でやりますから、あなたはもう帰って。(ジョウ口を乱暴に奪い取る)

尚史

おい、智子さん。そんなきつい言い方しなくてもいいじゃないか。

智子

きつい言い方なんてしてないわよ。ねえミス桜。

桜

泣きながら走り去る。

智子

あらあの子ったら帰っちゃったわ。何か気に触る事でも言ったかしら。ねえ尚史さん。私あの子を傷つける事言っちゃったかな。

尚史

自分で気づいてるでしょ。相手はまだ高校生だよ。

大人げないよ。

智子

もう高校生よ。尚史さんのことを誘惑しようとしてたわ。ウソ泣きまでして。何が目的なのかしら。

尚史

あれはウソ泣きだったのか。

智子

そうよ。女同士なら直ぐに見やぶれるわ。まるで女狐ね。尚史さんしっかりしなきゃ。あんなのに騙されちゃだめよ。

尚史

分かったよ。(腕時計に目をやり)おっと、もう5時

だ。僕はこれから芦屋の美術サロンに行ってマダム達相手にレッスンをしなければならぬ。

智子

こんな時間から。

尚史

そうなんだ。僕の個展の計画についての打ち合わせ

もある。今日は遅くなるよ。

智子

分かったわ。気をつけてね。

尚史

ありがとう。

尚史退場。入れ替わりに中原理事長が歩いて来る。

智子

あ、理事長。

中原

榎本先生。どうしました。

智子

先ほどお願いした、ミス桜の学費免除申請の件な

んですが、今さっきミス桜と話したところ、免除申

請はしないと云ってるのです。

中原

それは本当かね。親御さんも同意してるのか。

智子 勿論です。

中原 しかし、それでは桜君は退学処分になってしまふ。もう三か月も学費を納めておらんからね。

智子 仕方ありませんわ。本人の意思ですから。

中原 うーん、やむおえんな。わかった。申請書の提出は見送ろう。榎本先生。次桜さんに会ったら、申請書

に同意するよう説得してみてくれ。卒業まで後一年だから彼女の将来のためにもそうした方がいい。

智子 わかりました。理事長。

中原 それではごきげんよう。榎本先生。

智子 ごきげんよう。中原理事長。

### 中原理事長退場

智子 (中原理事長を見送った後。花壇の脇に建つマリア像に向かい、胸の前で両手を合わせる) 聖母マリア

様。嘘をついてしまいました。どうか罪深い子羊をお許し下さい。

智子退場。中原理事長が戻ってくる。

中原 いかんいかん。手帳を忘れてしまった。

スミレ 中原理事長。

中原 スミレ君かね。

スミレ はい。先日は私達の演劇の練習に参加してくださいましてありがとうございます。

中原 どういたしまして。レ・ミゼラブルでは、君はグラントールの役を演るんだったね。学園祭本番を楽しみにしているよ。

スミレ ありがとうございます。新聞部の方も、学園祭特集号の記事を書かなきゃいけないから、大変だわ。

中原 そうだね。スミレ君は演劇部の他に新聞部と映像製

作部に所属しているから大変だろう。

スミレ ええ、でも私将来はマスコミ関係の仕事に就きたいので、やり甲斐を感じておりますわ。

中原 そうか、君ならできるよ。ぜひ頑張りたまえ。（軽くスミレの肩を叩く）それじゃ、僕は理事長室に忘れ物を取りに戻るところなのでね。失礼するよ。スミレ君は暗くなる前に帰るたまえ。

スミレ はい。ごきげんよう中原先生。

中原 ごきげんようミススミレ。気をつけて帰るんだよ。

中原理事長退場 入れ替わりに銀行監査役で秘書の森田女史が歩いてくる。

森田 こんにちは。

スミレ こんにちは。（そのまま通り過ぎようとする）

森田 あなた、今中原理事長に肩を叩かれていたでしょう。

痛くなかった。

スミレ

ちよっと痛かったな。中原先生は若い頃フェンシングの国体選手だったから、力が強いんです。でも悪気があって叩いたんじゃないやありません。私の事を励ますためにしたんです。

森田

いけないわ。ミス：

スミレ

スミレです。

森田

ミススミレ。私見ていましたけど、あれは立派な暴力よ。

スミレ

さっきのがですか。確かに痛かったけど、暴力なんかじゃないわ。あなたいったい誰なんですか。見たことないけど、この学園の先生ですか。

森田

先生じゃありません。この学園のメインバンクの東神銀行から派遣されて、秘書の仕事をしてるの。森田よ、始めまして。（名刺を差し出す）

スミレ

始めまして。

森田 ミススマイレ、さっきの暴力事件について話し合いま

しょう。

スマイレ 暴力事件だなんて大袈裟です。

森田 ちっとも大袈裟じゃないわ。この画像を見て、私が

撮ったのよ。アイテルホンの画像を見せる。中原先生あきらかにスマイレさんを力を込めて叩いているわ。こーやって見れば暴力を振るっているように見えませんが、それがどうだっていうんですか。銀行監査員のあなたがなぜ私なんかに構うんですか。

森田 許せないのよ。暴力を振るう男が、画像だけじゃな

くて動画も撮ったのよ。これを御覧なさい。

スマイレ 凄い。こんな小さな画面に映像が映ってる。これ、

なんなんですか。

森田 この学園の馬鹿な校長先生が、須磨離宮ホテルでシ

リア系アメリカ人のスティーブドボチヨンズっていう青年から買ったって言ってたわ。馬鹿校長は空い

てる時間に本が読めちゃうからアイテルホンなんて  
センスの無い名前で呼んでるけど、私だったらそう  
ね、須磨離宮ホテルで買ったからスマホテと呼ぶ事  
にしましょう。

スミレ

このスマホテの映像、どうするんですか。

森田

どうもしないわ。ただ場合によっては公表も検討し  
ましょう。

スミレ

そんな。私なんとも思ってます。

森田

だめよ。そんな弱気じゃ。将来マスコミで働きたい  
んでしょ。

スミレ

どうしてそれを。

森田

監査役ですもの、知ってて当然よ。

スミレ

私…どうしていいか分からないわ。

森田

何もしなくていいわ。私に任せて。(スミレの肩を  
叩く)ごきげんよう。

森田退場

スミレ (マリア像の前でひざまずく) 聖母マリア様。私は  
どうすればいいのでしょうか。

暗転

激安イアン画廊(芦屋支店) 0120-000-0000の看板  
真暗なアトリエ、尚史がカンバスに絵を描いている。

イアンネムタイゼ三世 もうすぐできあがりだな、上手く描  
けてるじゃないか。いかにもフェルメールが描きそ  
うな宗教画だ。号あたりチエー万はくだらんな。  
鑑定士が見れば贋作だと直ぐに見破るでしょう。ムッ  
シユ、イアンネムタイゼ三世。

イアン3 いや、君は腕がいい、よほど目利きのいい鑑定士

でなければ、これが贋作だとはよもや思うまい。特にフェルメールは贋作が多く出回っている。真贋を見極めるために学会議で見本として示された作品ですら、後に贋作であった事が判明したという逸話がある。つまり居並ぶアカデミー会員は、贋作を手本にして贋作の真贋を鑑定していたわけさ。

尚史 鑑定書はどうするんですか。

イアン3 余計な心配はしなくともよい。鑑定書の贋作を書く。私はその道のプロだ。

尚史 世の中何も信じられない。鑑定書の鑑定書が必要だ。イアン3 無駄だ。鑑定書の鑑定書も偽物を作る。所詮何も信じてはならん。とどのつまり、信じられるのは自分自信だけだ。私もまだ描きかけの大作があるのだ。

もう一つのカンバスの前に立ち、ベールを外す

尚史 こ…これは、

イアン3 言葉もでまい。

尚史 ゴッホのヒマワリだ。いったいいくらで売るつもりですか。

イアン3 こいつは売らない。自分のために描いたんだ。ゴッホは生前これと同じく、花瓶に生けたヒマワリを七枚描いたと言われている。常に太陽に向って咲くヒマワリに芸術家を志す自分自信を投影していたのかもしれない。謎と苦難に満ちた人物だけに、ゴッホにとつての太陽がなんだったのか、彼の唯一の理解者である実弟のテオですら推し量る事ができなかっただろうが、私にとつての太陽は、間違いなくフィンセントファンゴッホそのものである。

尚史 ゴッホがよほど好きなんですね。

イアン3 私に芸術の道を歩ませたのも、挫折させたのもゴッホだ。私が今持てる全ての力を注いで描いたんだ。

この絵を見て感動しない者がいるとすれば、そいつは人間じゃない。血も涙もない獣だ。（ひと呼吸置いて）時にムッシュ尚史、貴殿嘘をついてるな、未来のワイフに対して。

尚史

芦屋のカルチャーサロンでマダム達に絵画のレッスンを行っていると云ってます

イアン3

面白い。世界的絵画の贋作を描いて、闇ルートで成金に売りつけてる、とは口が裂けても言えないものな。だが、これは皮肉ではなく、贋作絵師には贋作絵師の才能がいる。お前は神に選ばれたのだ。私が出会った絵師の中で一番腕がたつ。

尚史

喜んで良いものかどうか。

イアン3

勿論だ。自分の望みとは違っていても、人から必要とされる職に就くのは幸せな事だよ。（懐から札束を取り出す）セザンヌの分の報酬だ。

尚史

ありがとうございます。（受け取った札束をいぶか

しげに見つめてから鞆にしまう)

イアン3 安心しろ。偽札じゃない。

暗転

東神銀行

掛川 西井専務。セレブタリティ女学園への特別貸し付け

の稟議は通過したのですか。

西井 いや、融資判定会議で否決された。

掛川 やはり、ミスアイロニーが横やりを入れてきたのですか。

西井 ま、そういうことだ。

掛川 しかし何とかして追加融資しなければ、私も西井専務もセレブタリティ女学園から多額の賄賂を受けてます。背任罪でお縄ですよ。(手首を合わせて手

錠をかけられるジェスチャーをする)

西井 掛川君はまだいい。金だけだろう。私は我が娘より  
年下の愛人まで斡旋してもらった。

掛川 それはまずいですよ専務。いくつの子なんですか。

西井 …十七歳だ。

掛川 十七ですって。まだ子供じゃないですか。児童わい  
せつ罪に問われますよ。そんなに可愛いかったんで  
すか、その女の子。

西井 いや…男の子なんだ。

掛川 そうでしたか。失礼しました。

西井 ともかく、我々の保身のために是が非でも融資はと  
うさなければならんだ。激甘融資の西井の異名に  
かけても。

森田女史がお茶を持って入室して来る

森田

お茶をお持ちしました。

西井

おー、気が利くね。森田さん。今日はセレブタリティ  
女学園への出向はしなくていいのかい。

森田

水曜日は午後から出向の契約になってます。

掛川

だったら家で寝てればいいのに。仕事熱心だな。

西井

あまり無理はするなよ。銀行からの監査役というと、  
出向先から何かと煙たがられる事もあるかと思うが、  
もう暫くの辛抱だ。来月からは私が引き受ける。学  
園側に理事長のポストを開けてもらうように言うて  
ある。

森田

では今の中原理事長はどうするんですか。

西井

副理事長に降格だ。私が出向するんだから当然その  
くらいの便宜を図ってもらわねばな。

暗転

一カ月後セレブタリティゼミナールの開塾式当日、関係者控え室

掛川　いよいよ塾を開く時がおとずれましたね。感慨

深いものを感じますよ。

西井　そうかい。僕は何とも思わんがね。

掛川　融資の方。上手くいって良かったですね。さすがは  
激甘融資の西井さん。

西井　いや実はね、森田女史に稟議書を書き換えてもらっ

て融資判定会議に再提出したら、すんなり可決され  
たんだよ。全くあの女は相だなやり手だよ。だが、  
腑に落ちん。ワシの稟議書が通らずに、なぜあの女  
の書き換えた稟議書が通っちまったんだ。中身はそ  
んなに違わなかったぞ。

掛川　結果オーライというやつです。あまり深く考えない  
方がいいですよ。

西井 それもそうだな。これでワシも君も首の皮がつながっ

て、めでたしめでたしといったところだ。

掛川 あ、校長先生のスピーチが始まります。

エントランスホールでの記念式典の声だけが聞こえてくる

智子 (司会進行役を務める)これより、セレブタリティゼ

ミナール初代塾長、植池芋作よりご挨拶させていただきます。

植池 えー、本日はお忙しい中、セレブタリティゼミナール

の開塾式にお集まりいただき誠にありがとうございます。今日こうして晴れの日を迎える事が出来たのも、ひとえに皆様方のご尽力のおかげとたまわっております。本日はささやかではございますが、酒宴の席を設けさせていただきました。どうかお時間の許す限りご歓談くださいませ。それでは皆さん、

植池

ゆっくりしていったね(二)ステージを下りて、西井と掛川のいる控え室に入ってくる)

これはこれは東神銀行の西井専務と掛川課長、わざわざ足をお運びいただきまして恐縮です。エントランスホールでお酒とオードブルでも召し上がってくださいな。

西井

お気遣いなく、こっちのほうが落ち着くのでね。ここで結構です。校長。この度はおめでとうございます。

植池

ありがとうございます。これというのも、東神銀行さんにご融資して頂いたおかげです。さすがは激甘融資の西井さん。これからどうぞよろしくお願いいたします。

掛川  
植池

校長おめでとうございます。応援しますよ。ありがとうございます。掛川課長。あなたには何かとご尽力くださいまして。

中原 芋作君、ちよつと来てくれるか。

植池 (西井、掛川に対して)ちよつと失礼しますよ。

(中原に対して)おい、何の用だ。接客中だぞ、客人に対して失礼じゃないか。

中原 困った事が起きたぞ。ラッパー講師のネムネムと、

セクシー講師の浅野さんが来ないんだ。

植池 なんだって、そりゃ困るよ。二人には大金をはたいて他から引き抜いてきたんだ。

智子がステージから控え室に戻ってくる。

智子 まったく、なんで私が女子アナウンサーみたいな事を

をしなくちゃなんないのよ。プロを雇ってください。

植池 仕方がないだろ。予算がないんだから。

中原 ラッパー講師のネムネムからビデオレターが届いたぞ。

植池 何、ネムネムからビデオレターだと。早速再生しろ。

ターンテーブルの前で、男が歌う動画が流れる。

ネムネム ヨー、ヨー、俺はネムネム。ラップのビートに合  
わせて講義をするぜ、ユーにこの憤りを抗議するぜ。  
ベイバー俺はネムネム。セレブタリティゼミナール  
の塾長さんよ。耳の穴をかつぽじって目ん玉かつび  
らいて聞け。話が違うじゃないか。俺はジャマイカ  
生まれ、じゃないがヒップポップ育ちでもない。

この間の話では年間契約三千三百万だったのに今じゃ  
たったの二千二百万まで金額を下げて来やがって、  
俺の財布は干上がって。びえーんって感じでマジ草。  
ワロタ。ユーには常識ないからからもうじきだして  
やるぜ立派な葬式。新開地のナンシーちゃんにあげ  
る銭があるのなら、ちよっとはオレっちの報酬アゲ

アゲしろよ。シクヨロだぜベイバー。俺はネムネム  
ラップのビートにあわせて講義をするぜ。ユーにこ  
の憤りを抗議するぜ。俺は行かないぜ。契約破棄  
だ。要約すると、ようやく終了。ヨー、即帰ろう。

映像が切れる。

中原 どういうことだ。セレブタリティゼミナールの看板

講師になるはずのネムネムが来ないとなると、これ  
は大変なことだぞ。芋作君、どうしてネムネムの  
契約金を勝手に下げたんだ。

植池 いや、その、コストを下げようと思って。

中原 まさか、その金を新開地のナンシーちゃんに貢いだ  
んじゃないだろうな。

植池 いや、それは違う…と思う。

中原 違うと思うってどういうことだ。目が泳いでるぞ。

智子

いがみ合ってる場合じゃないわ。もうすぐネムネムによるプレス向けの特別ラップエキシビションを催す予定よ。

中原

中止にするしかないだろう。

植池

諦めるのは早い。ネムネム講師がだめでも、まだ我々には隠し球がある。セクシー講師の浅野さんだ。ワ  
ンレンボディコンスタイルで、塾生を悩殺しながら  
英語の授業をおこなうんだ。そろそろ到着する頃な  
んだが、まだみてないようだな。

智子が電話を持って来る。

智子

セクシー講師の浅野さんからお電話です。

植池

早く電話をよこせ。(智子から受話器を奪い取る)

浅野

浅野ちゃん。どうしたの、皆待ってるよ。  
このエロ親父め。昨日の懇親会でお前私のお尻触っ

ただろ。

植池

浅野

植池

あ、いや、その。それは酔っていて覚えてないが、きつと何かの間違えだろう。たまたま手が触れたただけで：ほら、今流行りの痴漢冤罪ってやつですよ。嘘つけ。お前酒飲めねえからって、オレンジジュース頼んでたじゃないか。それにおんどれ、私のパンツ覗いてただろ。初めの内は手鏡でチラ見していたけど、そのうちだんだん大胆になってきておんどれが自慢していた、空いてる時間に本が読めちゃうアイテルホンってやつで盗撮しだしやがって。

君、言うに事かいてなんて無礼な事を。名誉棄損で訴えてやるぞ。

中原  
植池

芋作君本当の事を言ってくれ。そんな事をしたのか。おい、お前は俺を疑うのか。盗撮だぞ、立派な犯罪じゃないか。確かに昨日は悪ノリで浅野さんに対して不快な思いをさせてしまったかもしれない。それ

は素直に非を認めて浅野さんに謝罪をしよう。しか  
盗撮となると、話は別だ。さすがの俺もやって良い  
こととわるい事の区別はつく。

中原 信じていいのか。

植池 当たり前だ。男芋作断じて嘘はつかん。この目を見ろ。この目が嘘をついてるように見えるか。

中原 …そのアイテルフォンを見せて見ろ。

植池 今は持っていない。

中原 嘘をつくな。

植池 嘘じゃない。何処かに置き忘れたんだ。

中原 都合が良すぎるじゃないか。どこに隠してあるんだ。

二人揉み合って争う。手鏡が床に落ちる

西井 手鏡が落ちたぞ。

中原 ちゃんと持ってるじゃないか。（植池のポケットか

らアイテルホンを奪う)

植池 あ、よせ。

中原 (智子にアイテルホンを投げる)

智子 (受け取ったアイテルホンの動画を見て絶句する) 本当だわ。セクシー講師を盗撮してる。さいてー。

植池 おい、人の携帯を勝手に覗くな。プライバシーの侵害だぞ。

中原 お前という奴は、自分の事を棚に上げてどの口がそんな戯言を言うんだ。バカヤロー。(植池を殴る)

西井 おい、二人ともよさないか。(掛川、中原、智子、で二人の喧嘩を止める)

浅野 もうあなたたち馬鹿とは付き合いきれないわ。契約金いららないんで、私辞めます。さようなら(電話が切れる)

西井 おい、あんたらが内ゲバしているせいで、セクシー講師も辞めちまったじゃないか。いったいどうする

掛川 んだ。無理矢理融資している私の身にもなってくれ。そうですよ。もし、塾の件が失敗して債権回収不能になったら、私達は終わりだ。

会場がざわついている。

智子 会場でラッパー講師とセクシー講師のエキシビション授業は、まだ始まらないのかって騒いでいるわ。

植池 こうなったらやむおえまい。中原、お前からステージに上がってラッパー講師の代わりをやれ。

中原 お前の指図は受けん。このエロ校長。

植池 頼むよ、セレブタリティ女学園を守るためだと思って、ステージでラップ歌ってくれ。この通り。(両手を合わせておがむ)

西井 私からお願いします。

掛川 私達の進退にも関わっているんです。

智子 理事長。

中原 私四十歳ですよ。都々逸なら若い頃新町の芸姑相

手に歌ったり語ったりしましたが、ラップなんて願ったり叶ったりしないし、全く踏んだり蹴ったり。マジ勘弁ってかマジ堪忍。

植池 お前、上手く韻を踏んでるじゃないか。その調子で

やるんだ。

中原 どうなっても知らんよ(ステージに向かう)

ステージで中原がラップもどきで歌いだす。その声だけが聞こえてくる。

中原 ヨー！ ヨー あ、それ。オレッチはMC中原。今夜

バズってインフルエンサー。お前らグズってインフルエンサー。ワンチャンあるかもハイリスペクト。虫歯予防に、はいシュミテクト。

ヨーワンワンツーツースリースリーフォーフォー  
ガンガンズンズングイグイ上昇  
夢に描いたシヨータム  
デカイ理想は夢じゃない  
スタート前の深呼吸  
夢に向ってフルパワー

(今井メロ作　メロラップより引用)

観客達が騒然となり、罵声が飛び交う。

観客　偽物じゃないか。本物のネムネムを出せ。

観客　ラップになって無いじゃないか。

観客　セクシー浅野講師はなぜ出てこないんだ。

中原が逃げる様にステージから控え室に戻ってくる。

植池  
中原

おい、暴動がおきるぞ。  
もう駄目だ。お終いだ。歴史あるセレブタリティ学園も僕達の代で廃校になるんだ。

片隅で西井と掛川がコソコソと話してゐる。

西井

えらい事になっちまったな。そもそも世間知らずの三代目お坊ちゃん従兄弟同士が取り仕切ってる学園に融資した俺が馬鹿だった。

掛川

西井専務逃げまじょう。

西井

逃げたって無駄だ。官憲の手からは逃れられない。でも、このままだと特別背任罪で逮捕は免れませんですよ。

掛川

西井

いや、まだ最終手段がある。ダミー会社を使った迂回融資だ。

掛川

西井

詐欺じゃないですか。それに直ぐに露見しますよ。しかし、やるしかない。どのみち俺達は捕まる。だが迂回融資で上手く誤魔化し続ければ、来年の決済までは時間が稼げる。その間に我々の分の金を着服して姿をくらませるんだ。

背後に森田女史が立っている。

西井

森田君。君、いつからいたんだ。

森田

ずっといました。

掛川

まさか、今の話。盗み聞きしてたんじゃないだろうな。

森田

ずっと聞いてたわ。酷い人達ね。今すぐ銀行を辞めていただくわ。

西井

なんだと。俺は専務だぞ。お前こそクビにしてやる。だが、今の話を誰にも言わないと約束するなら、こ

のまま出向役として残してやってもいい。

森田 お気遣いは結構。そんな事をしても無駄です。あなた達の悪事は既に皆さん周知の事実です。

西井 どういうことだ。

森田 エントランスホールを御覧なさい。

西井と掛川、控え室から出てエントランスホールを見る。

西井 あ、スクリーンに俺達が映っている。

掛川 今までの会話が全部聞かれていたのか。なぜ。

森田 (アイテルホンを取り出す)これよ。

西井 あ、アイテルホン。それを使って動画を撮ってたな。なんて卑劣な。

森田 あなたに言われたくないわ。(控え室の前方にある壇上で皆に向って語り始める)

西井専務には今すぐ辞めていただきます。それから

セレブタリティゼミナール三宮校は、今日をもって  
廃校とし、既に担保物件となっている土地建物の所  
有権は東神銀行のものとします。

植池 廃校って、まだ今日開校したばかりなのに。

森田 おだまり！話はまだ終わってません。セレブタリティ  
女学園は今後デイストピア女学園と改名し、私が  
新理事長を務めます。

植池 君に何の権限があってそんな事を言うんだ。

西井 そうだ。お前はいったい何者だ。

森田 私は東神銀行副頭取兼筆頭専務森田鉄子です。

西井 副頭取兼筆頭専務だって。お前まさか。

森田 なぜだか知りませんが、皆さん陰で私の事を、ミス

アイロニーと呼んでいるようです。

西井 な…なんてことだ。

森田 (壇上から周りを見渡し) 中原前理事長はおりますか。

中原 はい、私だが。何か。

森田 クビです。

中原 は？

森田 ですから、あなたクビです。同じ事何度も言わせないで。

中原 どういう事だ。訳を聞かせろ。

森田 とぼけるつもりですね。よろしい。一カ月前の午後、あなた生徒に暴力を振るいましたね。

中原 何を馬鹿な。誰がそんな根も葉も無いことを言うんですか。

森田 ミススミレ。いらっしやい。

スミレ はい。（壇上に上がる）

中原 スミレ君じゃないか。

森田 ミススミレ。怖がる事はありません。正直に告発しなさい。あなたはこの男に暴力を振るわれましたね。

スミレ ……はい。

中原 嘘だ。私は断じて暴力など振るってない。

森田

大声を出さないで下さい。ミススミレが怖がってるじゃありませんか。

中原

お前は黙ってる。スミレ君。私の顔を良く見て答えてくれ。いったいいつ何処で私が君に暴力を振るってたって言うんだ。

スミレ

一カ月前に、花壇のある所です。

中原

あゝあれは、君の事を励ますつもりで、軽く肩を叩いただけで

森田

叩いたんですね。はい、皆さん聞きましたか。この男は自らの罪を認めておきながらまったく自己を反省しておりません。聖職者にあるまじき危険な思想の持ち主です。

中原

いや、叩いたというのは、そういう事じゃないんだ。ほんの少し手が触れた程度なんだ。

森田

ミススミレは恐怖におののきながら私に救いを求めて来たのですよ。

中原 そんな大袈裟な。スマレ君。君はこの女帝に何か言

い含められてるのだろう。僕の方を見ろ。

森田 よして下さい。震えてるのがあなたには分からない

のですか。掛川！（大声で呼ぶ）

掛川 （壇上に上がる）

森田 この男を連れて行きなさい。

掛川が中原の腕を引っ張り壇上から引きずり下ろす。

中原 （振り向いてスマレの方を向く）スマレ君。先生が悪

かった。すまなかった。

悲しげな声で話しかけたが、スマレは振り向かなかった。

暗転

## 第二部 デイストピア

理事長室　これまで置いてあった甲冑や鎧兜、虎の剥製などが生徒（紅葉、スミレ）の手によって外にだされる。

森田  
掛川

ここにあるガラクタはみんな処分いたしましたよ。

中には歴史上重要な物もありますよ。ほら、これなんか、校長が、壇ノ浦の合戦で行方不明になった宝剣だと言っていましたよ。去年校長が関門海峡にスキューバダイビングに行った時に見つけて、自ら引き上げた代物ですよ。

森田

いらないわ。

掛川

こちらの古文書はどうします。

森田

なんなのそれ。

掛川

魏志倭人伝です。写本ではなく、原本だと校長が言っていました。中国旅行に行った時に、露天商から買った。

た物です。解説すれば邪馬台国の正確な位置が分かるんじゃないですかね。

へー、そうなの。要らないわ。興味ないし。

じゃあ、こちらのタイタニック号の乗船券はどうです。植池校長のお爺さんが、出港当日サウスハンプトンでジャックという青年にポーカで負けて、3枚あったうちの2枚を巻き上げられたんです。1枚じゃ家族旅行はできないってんで結局乗らなかったらしいんです。

うるさいわね。要らないって言うてるでしょ。

それでは、やはりミスアイロニー、あなたが欲しているのは、次期頭取の椅子でしょうか。

よくわかってるじゃないお前。さすがは落ち目の西井専務を見限って、途中から私の方へ情報を垂れ流してきたコウモリ野郎なだけはある。

お褒めにあずかり光栄です。

森田  
掛川

森田  
掛川

森田

掛川

森田

でも私には、次期頭取なんかよりもっと手に入れた  
いものがあるのよ。掛川。あなたには私の元でもう  
一働きしてもらおうわ。(智子に向って)ミス智子。

智子

お呼びでしょうか、ミスアイロニー。

森田

馬鹿校長は今何処にいるのかしら。

智子

植池校長でしたら、中原理事長と一緒に：

森田

理事長は私です。

智子

失礼しました。前理事長と一緒に校内に建つ先々代  
の建てた洋館に立て籠もって、プロパガンダ校内放  
送を流し続けています。

暗転

洋館、植池がマイクに向かい喋り続けている。

植池

セレブタリティ女学園の良識ある全校生徒の諸君。

君たちは騙されている。新理事長のミスアイロニーこと悪の女帝は、歴史と伝統を無視して我々に断りもなくにディストピア女学園等というふざけた校名に改名し、君たちの行動、思想を不当に監視しようとしている。

彼女の脳裏にあるのは、学園を支配するという権力と、東神銀行で頭取になるという野心のみだ。今、我々レジスタンスは窮地に立たされているが、決して諦めてはいない。必ずやミスアイロニーを倒して再びセレブタリティ女学園に平和と秩序を取り戻すべく、日夜密かに潜伏し、オルグを開いている。

セレブタリティ女学園の良識ある全校生徒の諸君。我々が再び不死鳥のごとく栄光を取り戻すまで、どうかサボタージュをもって新理事長森田とそのテカの掛川による森掛派に反抗の意思を表明してほしい。これで、昼休みの放送を終わることとする。掃除

当番の生徒は速やかに掃除道具を片付けるように。  
以上。次の放送は本日下校時間におこなう。心して拝聴せよ。

植池（ヘッドフォンを外し、マイクの前からはなれる）

中原 なかなかさまになってきたじゃないか。

植池 ディスクジョッキーになった気分だ。

中原 しかし、こんな事を続けていても奪われた学園を取り

戻す事はできん。何か良い方法はないだろうか。

植池 お宝を売って金に変えよう。理事長室は宝の山だ。

中原 今ごろは全部捨てられてるだろう。元々ゴミだから

な。

植池 冗談じゃないよ。タイタニック号の乗船券があった

だろう。俺達のおじいちゃんが、家族を連れてイギリス旅行に行った時、サウスハンプトンでジャックというチンピラにポーカーで負けて乗船券を2枚

巻き上げられたんだ。もし、勝っていればそのまま豪華客船で新大陸に行けたのに、と思うとおじいちゃんもとことんついていかなかったなあ。

芋作君。あの船は大西洋で氷山にぶつかって没んだんだよ。

嘘！マジで。

本当に知らなかったの。もし乗船していたら僕達は生まれてなかったかもしれないね。ともかく理事長室にあるのはガラクタばかりで、一文の価値もない。だがこいつは値打ちもんだぞ。（二冊の日記帳を机の上に置く）

ただの日記帳じゃないか。

日記帳自体には価値がない。中に書かれてある事が事実だとすると、僕達は大金を手に入れる事ができる。すなわちその金で、学園を買い戻せるんだ。

いったい何が書いてあるのか分かんが、そんなに

上手くいのか。お前にしてはやけに現実味を欠いたやり方じゃないか。

中原

仕方がないだろ。後二日以内に学校から立ち退かなければ、強制的にこの洋館も取り壊されてしまうんだ。

植池

まさに、溺れる者は藁へもすがる。ってやつだな。

中原

まさか芋作君にたしなめられるとはな。どうするんだ。伸るのか反るのか。

植池

伸るしかないだろう。早くその日記帳を読ませろ。

中原

その前に、芋作君は親父さんからイギリス旅行に行ったとき、旅先でトラという名前の女の子に会った事を聞いた事がないか。

植池

なにぶんまだ親父が五歳の時だからな。赤毛の可愛い女の子がいたと言ってた記憶があるんだが、その子の事かな。

植池

その子に違いない。日記を書いたのはその子だ。(日

記を差し出す)

トラ(ミス桜の声)

一九一四年四月十日 外交官のパパの出張で英国を訪れた。極東のジャポンという国から来た植池家族と、サウスハンプトンの港で会った。二人の背の低い夫婦は、一匹の猿を連れていた。猿は、私の胸をしきりに触りたがった。よく見ると、それは猿ではなく人間の子供だった。名前を大作と言う。この猿と私が遠い親戚だとママンが教えてくれた時、涙が出るほど自分の出生の忌まわしさを呪った。

植池

大作というのは俺の親父だ。

一九一四年四月一五日 パリに戻った今朝、植池家族が乗船したタイタニック号が大西洋で沈没し

たと、ル・モンド誌の朝刊で知った。あの植池家族がどうか無事でありますようにと、ノートルダムの鐘に祈りを捧げた。

一九一四年四月二八日　　どういふ経緯かわからなけれど、あの植池家族はタイタニック号には乗らなかったという事が分かった。植池家族から、無事帰国したという知らせのメールをママンが見せてくれた。神戸という街の風景画が、何枚か同封されていた。ノスタルジックな街並みが、どことなくパリに似て美しかった。

一九一四年五月一日　　悲しみで胸が引き裂かれそうな知らせを聞いた。外交官のパパの仕事の関係で、パパの母国であるジャポンに早急に帰国しなければならなくなった。あの風景画の街で、植池

家の広大な土地の一角に洋館を建てて、そこで暮らすのだという。私は、ジャポンという未開の土地に行くことよりも、世界一の都パリを去る事よりも、もう二度とマルクに会えなくなるのが何よりも悲しかった。

一九一四年五月二一日　パリを明日の朝発つ前夜、私はいつものようにパパとママンが寝静まった頃を見計らって、そっと裏窓から抜け出して深夜のシャンゼリゼ通りを歩いた。巡回中のポリスマンに見咎められたけど、私の事を娼婦だと思ったらしくニタニタと下卑た目を向けてくるだけであった。セーヌ川沿いに建つ煉瓦造りのアパルトマン、メゾン・ド・ボヌールの三階にその部屋はあった。ノックをすると、こんな時間にも関わらずマルクは起きてカンバスに向ってデッサンをしていた。

以下、トラを赤毛のカツラを付けた桜、マルクを尚史が演じる

「トラ、いったいこんな時間にどうしたんだ、君は明日の朝ジャボンに行くんじゃないのか」  
私は何も言わずマルクの胸に飛び込んだ。

「マルク、私行かない。あんなチビばかりの国行きたくない」

「君のお父さんの国じゃないか。そんな事言っちゃいけないよ」

「行きたくない。行きたくないよ。マルクと別れたくない」

「僕も別れは辛い」

「マルク、私を連れて逃げて」

「それは出来ないよ」

「だったらここで殺して」私は家から持ち出した短刀をマルクに渡した。

「トラ、そんな事出来ないよ。まるでジャポンの悲劇舞台じゃないか。ソネザキナント力っていうマルクは、優しく私の頭を撫で、静かに続けた。

「トラ、君はまだ子供だ。いつときの熱にうかされて人生を台無しにしてはいけない。ジャポンに行けば、きっと楽しい生活が待っている。僕も自分の絵が売れて世に認められるようになったら、必ず君を迎えに行くよ。それまで待っていてほしい」

「本当、それ本当」

「ああ、本当だ」

「私待ってるから。ずっと、ずっと待ってるから、きつとだよ。おじいちゃんになっても迎えに来て

ね。手紙をだすわ。絶対だよ」

「約束するよ」

「私、…ジャボンにいく」

「これは君へのスーベニアだ」マルクが一枚の絵画を渡してくれた。

「これ、…私だわ。私の事を描いてくれたのね」

「あと、瞳を描いて完成だ。トラのオリエンタルな漆黒の瞳の色は、パリ中の絵具屋を探しても、中々手に入らなくてね。だから、自分で作ったんだ、色々な黒を混ぜてやっと完成したんだ。さ、そこに座って、今君の瞳を描いてあげるよ」マルクがカンバス越しに私をじっと見つめる。この眼差しだ。心の深淵まで覗き込んできそうなこの青年の眼差しを私は愛したんだ。マルク・シャガール。

筆先が紙面に触れるその刹那、ノックの音が二

人の静寂を破った。私は一瞬身を硬くした。

ドアの隙間からマルクが応対する。

「どなたですか」

「夜分に失礼します。パトロール中の警察官ですが、この部屋に売春婦が来ませんでしたか」

「来てません」

「少し部屋の中を拝見してもかまいませんか」

「どうぞ」

ポリスマンが部屋へ入ってくる寸前に、私は裏窓から外に出て非常階段を降りた。ガス燈の光が石畳を艶っぽく照らした。シャンゼリゼ通りを、脇にマルクの未完成のカンバスを抱えて家路へと歩いた。

洋館に住んでいたんだ。親父に聞いたことがある。一度お風呂に入っているところを覗いてたのがばれて、ビンタされたんだって。

中原

その事も、日記の最後の方に書いてあるよ。

植池

で、この日記が一獲千金をワシらにどうもたらしてくれるんだ。

中原

シャガールの描いた絵だよ。未発表の物が見つければ時価4億円はする。日記に書いてある事が真実なら、トラは日本に来る時に例の絵を持ってきてるんだ。だが、何処にあるのかが分からない。この洋館の中を隅々まで探したが見当らない。

植池

どこあるのか日記に書いてないのか。

植池

メゾンドボヌールに飾った、とある。この敷地内にあるようなんだ。なぜなら毎日のようにそこに çık けて、絵を眺めていたと日記にある。

植池

その、メゾンドなんちゃらって場所はいったいどこ

なんだ。お前は日記を全部読んだんだろう。

それが分からないから困ってるんじゃないか。それにトラの消息も不明だ。日記は一九二四年八月で途絶えている。

植池　つまり、その場所を探しだしてシャガールの絵を奪えばいいんだな。

中原　そういう事だ。ちなみに、これがトラ写真だ。家族写真がこの洋館に残っていた。

植池　(写真をじっと見つめる) 分かった。立ち退きまで後二日だったな。それまでにメゾンドボヌールって隠れ家を探しだしてみせるよ。

紅葉が入室して来る。

紅葉　失礼いたします。ゴミ箱を交換させていただきます。  
植池　掃除当番だね。ご苦労さん。

紅葉

(机の上のトラの写真を見つめる)あ、私この子知ってるわ。

中原

ミス紅葉。君、トラを知ってるのか。

紅葉

ええ、ミスメランコリーよ。何度か見たことがあるの。

植池

見たことがあるっていったいどういうことだ。

紅葉

部活で帰りが遅くなった時、校内を歩いているの。

誰かを探しているようで、とっても淋しげな表情をして。私以外にも見たことがあるっていう生徒はいるわ。誰からともなく、その子の事をミスメランコリーって呼ぶようになったの。

中原

つまり、君が見たって言うてるのは、幽霊なんだね。

紅葉

そうよ。透き通るように真っ白な肌、燃えるような鮮やかな赤毛。あれは人間じゃないわ。きっと幽霊よ。

中原

幽霊じゃ仕方がない。まあ、生きていたとしても、

もう九十歳を超えているが。

いや、幽霊でも何でも構わないじゃないか。その、ミスメランコリーって奴を捕まえればメゾンドボヌール場所がわかるかもしれない。早速今晚捕獲に行ってみよう。

中原 そんなに上手く行くものかな。

植池 伸るか反るか言って言っただろ。後二日しかないんだ。

ワシらには伸る以外の選択肢はない。(キャビネツトからライフル銃を取り出す)

中原 芋作君。そんな物騒な物だしてどうするんだ。

植池 決まってるだろ。ミスメランコリーに襲われたら、

この、父親の形見のジエームズパーディーで応戦するのだ。(銃を構える姿勢をとる)

中原 芋作君相手は幽霊だぞ。もう死んでる相手に銃で撃つても意味ないんじゃないか。

植池 まあみてろって。あれば何かの役に立つさ。それ、

お前も持って行け。念の為だ。キャビネットからもう一丁ライフルを取り出し中原に渡す。

## 暗転

## 校庭の花壇

尚史が花壇に水をやっているところへ、ミス桜が訪れる。

桜 尚史先生、手伝うわ。

尚史 ありがとう、桜君。君、学校には来てるようだけど、ちゃんと授業には出席してるのかい。

桜 授業、出てないわ。

尚史 だめじゃないか。ちゃんと授業にでなきゃ、卒業出来ないよ。

桜

もうどうだっていいんです。

尚史

投げやりになっちゃいけない。君は今子供から大人になりつつある、だから非常に不安定な心境になりやすいんだ。感情が揺れ動くのは当然で、刹那的な衝動に駆られるのもそのせいさ。

桜

尚史先生。いつから保健体育の先生になったの。

尚史

君のためを思って言ってるんだよ。

桜

説教する人の常套句ね。今日は尚史先生に聞いてほしい事があって来たの。

尚史

いったいなんだね。

二人、ベンチに腰掛ける。

桜

新理事長のことよ。

尚史

新理事長って、ミスアイロニーって呼ばれてる人かい。彼女がどうしたの。

桜

私の…母なんです。

尚史

それは本当かい。そんな偶然があるとは。

桜

偶然じゃないわ。きつと私がこの学校にいることを

知っていて理事長のポストに就いたのよ。まだあ

の事を根に持ってるんだわ。あの人、蛇みたいに執

念深い人なんだから。

尚史

複雑な事情がありそうだね。

桜

私が小学一年生の時、クリスマスを間近に控えた夜

だったわ。イルミネーションに照らされた三宮のアー

ケードを母と二人で歩いていたの。塾の帰りだった

と思う。おもちゃ屋のショーウィンドに、素敵なフ

ランス人形の縫いぐるみが飾ってあったの。私は母

に買ってほしいとねだった。でも母は買ってくれな

いどころか、説教を始めたの。いい、桜、あなたは

東大を目指すのよ。そして私のように銀行員になら

なきゃいけないの。女が自分一人の力で生きて行く

ためには、あらゆる事を犠牲にしなきゃだめよ。クリスマスも、フランス人形も、今のあなたには必要ない。今のあなたに必要なのは、計算ドリルと単語カードよ。分かったら帰って今日塾で習った事をおさらいしましょう。私は何も言えず、ただ母の言葉に従うしかなかった。

数日後、クリスマススイブに、母と私と、離婚した父の三人でレストランで食事をしたの。父は母とは正反対で、放埒な人だった。一緒に住んでいた頃は時々母に暴力を振るう事もあったようだけど、私には優しかった。なぜこの二人が結婚したのか、子供の子には疑問だった。

暗転

以下、声のみの芝居

父　クリスマスイブまで勉強させる事ないだろう。

母（ミスアイロー）　人の教育方針に口出ししないで。あな

たには関係ないでしょう。

父　俺の子供でもあるんだ。桜が可哀想だよ。

母　女作って家を放ったらかして出て行ったくせに、娘の前でだけ、理解あるお父さんのように振る舞うのはやめて。

父　俺は子煩悩なんだ。ただお前とは一緒に暮らせなかつ

ただけだ。息苦しいんだ。いつもギスギスしていて。

母　勉強、出世、野心って、お前はそれで満足かもしれないが桜にまでそんな過酷な人生を歩ませたくない。少しくらい楽しみがあってもいいじゃないか。

父　あなたは甘いよ。全部桜の将来のためよ。

母　桜の現在の幸せを考えろよ。

母　そんな事が言いたくて今日呼び出したの。

母 父

桜を引き取りたい。

：何言ってるのよ。あの馬鹿女の連れ子三人も引き取って、その上桜を引き取るですって。子供は物じゃないのよ。桜の気持ちを考えてよ。

考えたさ。家内も賛成してくれてる。家にいる子と分け隔てなく育てる。

母 父

できっこないわ。さ、桜帰るわよ。

席を立とうとする。

父 母 父

また、帰って勉強の続きかい。

うるさいわね。ほっというてちょうだい。

さ、桜。パパの家に帰ろう。今日はみんなでクリスマスパーティーだ。桜の分のケーキも用意してある。お姉さん達も待ってる。みんな桜の事が大好きなんだ。

母

父

母

桜

父

桜

父

桜

父

騙されちゃいけません桜。帰るのよ。こんな男の家に行ったら不幸になるだけよ。これまでたくさん  
の女を不幸にしてきたんだから。

(ラッピングされた箱を桜に渡す)これはサンタからの  
プレゼントだ。良い子にしていたから、一足  
早く届いたんだね。

卑怯よ。その手で、あの馬鹿女も騙したんだね。  
昔の私の事も。

開けてもいい。

どうぞ。

フランス人形だわ。私が欲しかったやつ。どうして  
わかったの。

桜の事なら何でも知ってるよ。お前は俺の娘だから  
ね。

嬉しい(フランス人形を抱きしめて嗚咽する)

こんな事で涙を流して喜ぶなんて、これまで相当

苦労したんだろうね。

桜。そんなもの返して早く私と帰りましょう。明

日は塾の模試があるのよ。寝過ごしたら大変だわ。

桜。パパのお家においで。

ママ、：私パパのお家に行く。

：何言ってるの、ママと帰るのよ(桜の腕をとる)

痛い(手を振りほどく)

桜が嫌がってるじゃないか。

：分かったわ。好きにすれば。

ママ怒ってるの。

怒ってなんかないわよ。

ママ、ごめんね。

：。

この人に何を言っても無駄だよ桜。生まれてからこれまで泣いた事がないんだ。銀行ではミスアイロニーって渾名されてる。鉄と皮肉でできた心臓。所詮、人

の気持ちも、自分自身の気持ちもわからないんだ。  
さあ、行こう桜。

照明がつく。

尚史  
桜  
それで、君はお父さんと暮らすようになったんだね。  
うん。それ以来母とは会ってないわ。でも、今朝の  
新理事長就任式で、十年ぶりに母を見たの。何も変  
わってなかったわ。冷酷な野心の塊のような表情を  
していたわ。：ねえ尚史先生。私どうすればいいの。  
何も心配いらないよ。明日からまた学校に来て授業  
を受ければいい。

尚史  
桜  
授業に戻れるの。

尚史  
桜  
勿論だよ。智子先生が学費の免除申請をだしてある。  
桜君は成績優秀だからきっと審査はパスするよ。  
智子先生って尚史先生のフィアンセなんですよ。

尚史

まあね。

桜

運命は残酷にできているわ。尚史先生。幸せになつてね。

向かい合う二人に今年初めての落ち葉が舞い散る

尚史

ありがとう。

桜

誰か来るわ。

植池と中原が歩いて来る。二人はライフル銃を肩に担いでる。

尚史

校長先生。中原前理事長。お揃いでキジ撃ちにでも出かけるんですか。

植池

いや、幽霊撃ちだ。

尚史

幽霊撃ち。ゴーストバスターズですか。

植池

ミスメランコリーって言ってね。生徒達の間では有名なんだ。君知ってるかい。

桜

知らないわ。

植池

もしミスメランコリーを見かけたら、直ぐに知らせてくれ。四億円の絵画の在処を知っている唯一の生き証人だからね。

尚史

幽霊を生き証人って言うんですかね。

植池

まあいいさ。言う事を聞かなきゃ、このジエームズパーディーが火を吹くだけさ。それじゃわれらは先を急ぐのでな。

## 植池と中原退場

尚史

桜君。僕もこれから芦屋のサロンで講師の仕事があるんだ。失礼するよ。君も遅くならないように気をつけて帰るんだよ。

桜　ありがとうございます。尚史先生。個展の方は

いつ頃の予定なんですか。

尚史　ああ、それならもう少し先になるんだ。色々と面倒

な手続き等があつてね。

桜　そう、私楽しみにしてますから。頑張つて下さいね。

尚史　ありがとうございます。

## 尚史退場

桜　明日からまた、授業に出よう。少し緊張するけど

勇気をださなきゃ。

智子　あなたもう手遅れよ。退学が決定したの。

桜　あ、智子先生。いつからいたの。

あなたが泥棒猫みたいに、私のダーリンを籠絡してた頃からずっと見てたわ。

桜　籠絡なんてしてません。私は尚史先生に相談にのっ

智子

てもらってただけです。

とぼけるんじゃないわよ。色目まで使って、しなだれかかってたじゃないの。

桜

そんな事してません。智子先生はどうして私を目の敵にするの。どうして私が退学なの。授業料の免除申請をだしてくれたんでしょ。

智子

あらごめんなさい。申請書を出すのを忘れちゃったわ。(申請書をヒラヒラと振ってみせる)

桜

酷いわ。

智子

自業自得じゃない。あなたが自ら学校に来なくなっただんじやない。でも、チャンスあげるわ。今後二度と私のダーリンに近づかないって約束してくれたら申請書を提出してあげる。期限は今日の午後五時までだから、後三分あるわ。

桜

卑怯よ。大人のくせして子供相手に恥ずかしいとは思わないんですか。

智子

なんだってするわ。私はダーリンを愛してるのよ。誰にどう思われたって構うもんですか。尚史さんは近い将来立派な画家になるのよ。もう少ししたら個展だって開くんだから。私は尚史さんの夢の実現のために全てを捧げてるのよ。あんたみたいな若気の一時の熱に浮かされたような青春の二コマじみた時代錯誤の少女漫画風ラブストーリーとは覚悟が違うんだから。

あはははは。

桜 智子

何が可笑しいのよ。

覚悟ですって。ちゃんちゃら可笑しいわ。もう少ししたら個展を開くなんて、あんたそれ本気で信じてるわけ。あんなの男が見栄を張るためにつく嘘に決まってるじゃない。そんなありふれた常套句も見抜けないなんてとんだお嬢様。あんたみたいな世間知らずは、その辺に掃いて捨てるほどいる馬鹿なイケ

智子  
メン野郎とでも付き合ってればいいのよ。  
(桜を平手打ちする)知ってるわよ。そんな事。あ

なたなんかに言われなくたって女だったら誰だって  
気づくわよ。

桜  
よくも殴ったわね。尚史先生は私のものよ。おまえ  
なんかに渡すもんですか。この馬鹿女。許さないわ。

桜、  
走って立ち去る。

智子  
どうしよう。私、大変な事をしてしまったわ。人に  
手をだしてしまった。それも私の生徒に。どうして、  
どうしてこんな事を。(手に握ったままの申請書を  
見る)まだ間に合うかもしれない。(校舎に向って駆  
けだす)

チャペルの鐘が鳴る。

スピーカー 全校生徒の皆さん。五時になりました。校内に残っている人は、速やかに下校しましょう。(蛍の光が流れる)

# 暗転

植池 五時をまわったぞ。ミスメランコリーはまだ現れないな。

中原 本当にいるのかな。生徒達が噂してるって言ってもよくある学校の都市伝説的なものじゃないかな。

植池 でも、実に見たって言う生徒が結構いるから、噂とはいえ、信憑性はあるよ。

中原 芋作君。僕は今晚趣味の予定があるんだけど。。

植池 おお、そうか、悪かったな。読書以外楽しみの無い無趣味の中原理事長が何か没頭できる趣味を見つけ

中原 たつて、将棋か盆栽でも始めたのか。

中原 いや、ラップだよ。

植池 なにラップを、これは以外だな。

中原 先日ステージで演ったのが刺激になってね。毎晩ク

ラブで若い連中相手にバトルやってるのさ。

植池 真面目が服を着て歩いているような性格のお前がラッ

プとはな以外だよ。

中原 ギャップ萌え、って言うやつさ。

植池 なんだか使う言葉も垢抜けてきたな。

中原 あ、あそこに青いドレスを着た女がいる。

植池 本当だ。赤いロングヘアー、間違いない。ミスメラ

ンコリーだ。一発で仕留めてみせるぜ。

二人、銃を担いで追いかける

暗転

イアン3 新たなオーダーだ。お前、これを描けるか。

尚志 ミレーですね。大丈夫です。

イアン3 納期は明日の正午までだ。

尚志 わかりました。大急ぎで描きます。

尚志が絵筆を走らせるのを、イアン3世はじっと見つめる

イアン3 筆先にいつもの滑らかさがない。お前疲れているな。

尚史 学園でゴタゴタがありました。

イアン3 噂には聞いている。植池一族が、銀行から来た女に追い出されたんだってな。なんて名前だったか

な。確かミスアイロニーとか言ったな。

尚史 よくご存知で。

イアン3 週刊誌にのっていたんだ。それにしてもミスアイロニーとは、まったく人を食った名前だ。

尚史 ムッシュイアンネムタイゼ三世。

イアン3 なんだ。

尚史 個展はいつ開かせてもらえるんですか。

イアン3 まだ先の話だ。もっとオリジナル作品を作らなければならぬ。

尚史 もう、二十作品描きました。

イアン3 それは知っている。：しかし、いや、よそう。

尚史 何ですか。

イアン3 はっきり言ってもいいか。

尚史 ええ。

イアン3 どれも、みなぱっとしないんだ。つまり、オリジナルティがない。何処かで見たことのある西洋画

を思いおかさずにはいられないんだ。

尚史 僕には才能がないと。

イアン3 そうは言ってない。ただ、向き不向きで言うと、

君は明らかに贋作絵師向きだ。

尚史 侮辱にしか聞こえません。

イアン3 その気持ちはよく分かるよ。なぜなら私自身帝国

美大を首席で卒業した後、かの大森画伯の門下で天才と周りから賞賛されながら努力を重ねたが一向に芽が出ず。最後には大森大家からお前は贋作絵師に向いていると言われたのだからな。

尚史 そうだったんですか。

イアン3 私がお前と違うのは、贋作絵師としてプライドを持つていることだ。私の作品が国立西洋美術館に2枚展示されている。現代の化学識別判定を用いても絶対見破る事はできない。なぜなら私の作品は本物よりもクオリティが高いからだ。

尚史  
：

イアン3 お前私と本格的に組まんか。お前は天才だ。私がこれまで会ってきた贗作家の中で一番腕がいい。後はお前がこの仕事に誇りを持てるかだな。

尚史  
遠慮します。

イアン3 そう言うと思った。ま、考えておいてくれ。

## 暗転

## 尚史と智子の家

尚史 ただいま、智子さん。どうしたんだい、泣いてるじゃないか。

智子 尚史さん。私、どうしよう。ミス桜を叩いてしまったの。

尚史 どうしてそんな事になったんだい。何か訳があるん

だろう。

智子

あの子、尚史さんの事を籠絡しようとしてたんじやないわ。今日、尚史さんとミス桜が花壇で話してるのを見ていて分かったの。ミス桜は本気で尚史さんの事を愛してるんだわ。

尚史

そんな馬鹿な。桜君は少し大人びているが、まだ高校生だ。あれぐらいの年の子によくある傾向だ。大人の男に憧れるのは。思春期の淡い思い出として直ぐに溶けて無くなるもんだよ。

智子

尚史さん、あなた何も分かってないわ。

暗転

翌日

新理事長室　ベルサイユ宮殿のように豪華な室内に様変

わりしている。ミスアイロニーが真紅のドレスを着て椅子に座っている。

アイロニー 掛川。お茶。

掛川 はい、ただ今。ミスアイロニーのお気に入りのダーリンでございます。

アイロニー (カップに口をつける) ぬるい！(紅茶を掛川の顔面にぶっかける)

掛川 アチチチ。申し訳ありません。

アイロニー 違うだろーこのハゲ。何度言ったらわかるのよ。アフタヌーンティーもろくに入れないなんて、秘書失格よ。私は激甘融資が売りの西井とは違うのよ。(スマイレの方を向いて) ミススマイレ。

スマイレ はい、ミスアイロニー。御手前に。

アイロニー ミス智子はまだ戻らないの。

スマイレ はい、スマイレ、ミスアイロニーに申しあげます。

ミス智子先生は家に在宅しております。

アイロニー 遅いわ。まさか植池派に寝返ったんじゃないでしょうね。

スミレ スミレ、ミスアイロニーに申しあげます。私が行って確かめて来ます。

アイロニー 大丈夫ミススミレ。植池派には、あなたに暴力を振るったドメスティックバイオレンサー中原がいるのよ。

スミレ …なるべく会わないようにします。

アイロニー じゃあお願いね。くれぐれも無理はしないでね。

入口で人の気配がする

アイロニー 誰。

客人 イアン画廊のイアン三世です。ご依頼の作品をお持ちいたしました。

アイロニー 何も頼んでませんけど。

掛川 校長が以前に頼んでたんじゃないですか。

掛川 イアン画廊とかいいましたね。

イアン3 いつもお引き立て頂きありがとうございます。

今日は校長はおられませんか。

掛川 あいにく校長はここを出て行ったよ。

イアン3 困ったな。こちらにお届けするように承っていたんですが。

アイロニー イアン：なんて言いましたっけ。

イアン3 イアンネムタイゼ三世です。

アイロニー いったい何処の国の人なの。その絵、支払はどうなってるの。

イアン3 手付金のみ頂いております。

アイロニー ミレーって言ったわね。あいにくですが私絵画には興味がないの。

イアン3 それでは投資にいかがですか。未発表作品で鑑定

書付きですので持っていて損はありませんよ。

アイロニー 掛川！

掛川 悪い話ではないと思います。

アイロニー 鑑定はこちらで依頼するわ。本物なら買ってあげましょう。

イアン3 ありがとうございます(絵画を壁に掛ける)

暗転

花壇 尚史と智子

尚史 ともかく桜君を見つけて謝ろう。

智子 もう学校にはいないと思うわ。

尚史 でも家にもずっと帰ってないんだろ。ひょっとしたらまだ校内の何処かにいるかもしれない。

智子 誰か来るわ。ミス桜かしら。

スミレ 智子先生。それに尚史先生も。

智子 ミススミレじゃないの。どうしたの。

スミレ 智子先生を探すのを口実にして森掛派から抜け出して来たんです。私、もうあそこには戻りません。

智子 でも、ミススミレはミスアイロニーの親衛隊隊長でしょ。どうしてそんな気になったの。

スミレ 私……中原先生に謝りたくて。私が間違ってたわ。

智子 ミススミレ、あなたを尊敬するわ。私も見習わなくちゃ。

スミレ 智子先生も間違いをおかしたのですか。

智子 そうよ。

スミレ 先生で大人の人でも間違える事ってあるんですか。

智子 もちろんあるわよ。ただ、大人になると、過ちに気づきにくくなったり、認めなくなったりするの。

尚史 また誰か来る。

智子 何あの人、怪しいわ。

スミレ 本当、警察呼んだ方がいいかもしれないわ。

イアン3 やあ、尚史君。今晚わ。

尚史 イアンネムタイゼ三世。いったいどうしたんですか。  
イアン3 商売だよ。昨日のミレーの未発表作品を新理事長  
に売ってきたのさ。

尚史 売れたんですか。あの人は絵については門外漢です  
よ。

イアン3 転売用にと勧めてきた。さすが銀行員、話にのつ  
てきたよ。鑑定士を依頼すると言っていたから、後  
は鑑定結果しだいだが大丈夫。君が描いたんだから。  
見破られる事はまずないだろう。

智子 尚史さんが描いたの。

尚史 いや、違うんだ。えーと：

スミレ あそこに誰かいるわ。

尚史 本当だ。青いドレスと赤い髪の毛。

智子 ミスメランコリーだわ。生徒達が言った通り。誰か

を探しているようだわ。

尚史　こっちに来る。

赤毛を付けた春菜がミスメランコリーを演じる。尚史をじっと見つめる。

メランコリー　やっと会えたわ。ずっと待っていたのよ。マルク。

イアン3　どうやら君の事をマルクという男と勘違いしているらしい。

メランコリー　（ふらふらと歩き出す）

智子　何処へ行くのかしら。

イアン3　ともかくついて行ってみよう。

尚史　智子　スマレ　イアン3、メランコリーの後につ

いて歩く。メランコリーが花壇の脇にあるマリア像を動かす。

尚史 階段があるぞ。地下室に通じる階段だ。

暗転

地下室

尚史 ずいぶんと歩いたな。ここは何処だ。

智子 真暗で何も見えない。少し広い場所に出たみたいね。

明かりがつく。メゾンドボヌールと書いてある。部屋の壁沿いに、植池と中原先生が縄で縛りつけられて座っている。

尚史 あ、校長先生。中原理事長も。いったいどうしたんですか。

植池 その化け物にやられたんだ。

中原 た、助けてくれ。殺される。

メランコリー 静かにしろ(奥からジェームズパーディー銃を担いでやってくる。植池と中原に向けて一発撃つ。植池と中原の後ろの壁に穴が空く。二人悲鳴をあげる)

智子 (ミスメランコリーをじっと見つめて)あなた。ミス桜じゃないの。どうしてこんな事するの。

メランコリー 私はトラよ。春菜でも、ミスナントカっていう名前でもないわ。

植池 取り憑かれているんだ。昔フランスから親の都合で日本にやって来てここに住み着いた、トラという女の子に。

メランコリー 余計な事喋るんじゃない(銃口を校長に向け

植池　　る)どたまかち割られたいのか。  
す…すいません。撃たないで。

階段を誰かが下りてくる足音がする

メランコリー　(銃口を向ける)誰だ。

紅葉　私です。

智子　ミス紅葉じゃないの。どうしてここに。

紅葉　私、今日掃除当番で、マリア像を拭こうとしたら像

の位置がづれていて地下に通じる階段があったから  
下りてきたの。皆こそ何でこんなところにいるの。

(周りを見渡し)ミス桜。学校に戻ってきたのね。

嬉しい。あっ分かったわ。これは新作演劇の練習ね。

ミス桜は、さだめしオフィーリアってところかし

ら。ハムレットならお手のものよ。(大袈裟な身振

でセリフを語る)生きるべきか。死ぬべきか。それ

が問題だー。

メランコリー うるさい。べらべら喋るなぶっ殺すぞ。(銃を天井に向けて撃つ。天井から土埃がバラバラと舞い落ちて来る)

紅葉 (驚いて腰を抜かす)

メランコリー てめえら死にたくなければ大人しく壁沿いに並んでじっとしてろ。

智子 スミレ 紅葉 イアン3 壁沿いに整列する。ミスメランコリーは、尚史の腕を掴む。

メランコリー マルク、あなたはその椅子に座って。待ってね。(奥から大きなカンバスを取り出してくる)  
イアン3 (絵を見て驚愕する) シャガール。マルクシャガールだ。

メランコリー うるさい。てめえ怪しいぞ、何者だ。

イアン3 イアンネムタイゼ3世です。

メランコリー (銃を撃つ) 訳のわからねえ名前つけんじゃねえ。

イアン3 (頭を押さえてかがみ込む。イアンの後ろの壁に穴が空く)

メランコリー さあ、マルク続きをお願い。後は瞳を塗るだけよ。私のオリエンタルな漆黒は、あなたにしか描けないのよ。

あの日のアパルトマンの一室と全く同じように、メランコリーが尚史と向かい合って座る。

尚史 ミスメランコリー…いや、ミストラ。すまないが僕

はマルクじゃないんだ。君は勘違いしているんだ。

メランコリー (椅子の横に置いたジェームズパーディー銃に手をかける)

尚史 わ…分かった。描くよ。描くから待ってくれ。

メランコリー（銃を下ろす）

イアン3 尚史早まるな。マルクシャガールの未発表作品だ。

保存状態が良くないが、修復すれば三億…いや五億円は下らんぞ。君が一筆加えただけで価値が二束三文に落ちてしまう。

メランコリー イアン3を睨みつける。

イアン3 う…撃たないでくれ。尚史、いやマルクシャガール君。続きを描いてあげなさい。

尚史 （カンバスに向うが、腕がガクガク震えて中々描けない）

舞台の照明が尚史とメランコリーだけを照らし出す。二人の動きが止まり、あの日の音声が流れる。

「トラ、君はまだ子供だ。いつときの熱に浮かされて人生を台無しにしちゃいけない。ジャポンに行けば、きっ

と楽しい生活が待っている。僕も自分の絵が売れて世間に認められるようになったら、必ず君を迎えに行くよ。それまで待っていてほしい」

「本当、それ本当」

「ああ、本当だ」

「私待ってるから。ずっと、ずっと待ってるから、きつとだよ。おじいちゃんになっても迎えにきてね。手紙をだすわ。絶対だよ」

「約束するよ」

「私、…ジャポンに行くわ」

現実の芝居に戻るが、スポットライトは尚史とメランコリーだけを照射。

メランコリー 私、…ずっと待ってたんだよ。いつ迎えに来てくれるんだろうって。この暗い地下室で、皆

からガイジンとか合の子とか指をさされても、ずっとあなたが来るのを信じてたんだよ。お願いよ。マルク、絵を完成させて。

尚史 (カンバスを前にじっと被写体のミスメランコリー

を凝視する)

メランコリー (尚史の姿をじっと見つめるが、はっと何かを感じとる) 違う。違うわ。あなたマルクじゃない。私を騙したのね。

尚史 だからさっきからずっと違うって言ってるじゃないか。

メランコリー よくも騙したな。許せない。(ジエームズパー  
デーの銃口を向ける)

紅葉 誰か来るわ。

地下道をこちらへ歩いて来る足跡

メランコリー 誰だ（銃口を向ける）

年老いた男が現れる

男 私だ。

メランコリー …マルク、マルクなのね。

マルク そうだよ、トラ。迎えに来たんだよ。手紙を送ってくれたね。ありがとう。（カンバスを見て）おお、懐かしい、私の若い頃の絵じゃないか。確かまだ描き終えてなかったな。どれどれ。トラ、そこへ座りなさい。

絵筆をとってカンバスと向き合う。あの日と全く同じ姿、瞳を描き、仕上げにサインをする。

マルク さあできたよ。（カンバスをトラに見せる）

トラ 私、幸せ。これで天国へ行けるわ。

マルク 私もこれから愛しのベラが待つ天国へ行くんだよ。

さあおいで。(トラの手をとる)

二人、共に地下道を通って退出

イアン3 消えたぞ。きっと成仏したんだろ。

植池 おい、縄をほどいてくれ。

皆で植池と中原の縄を解く

桜 ここは何処(地下道を通って戻ってくる)

紅葉 ミス桜。

スミレ ミスメランコリーの魂が抜けたんだわ。

三人で抱き合う。

桜

皆どうしたの。(自分の青いドレスを見て)あ、分かったわ。新作演劇の練習ね。私はさだめしオフィーリアってところかしら。でもやっぱりお姫様の役は私なんかより紅葉、あなたの方がはまり役よ。(紅葉を指指して、まるで宝塚の男役のような大振りな演技で)オフィーリア、尼寺へ行け！生きるべきか死ぬべきか、それが問題だ！

智子

ミス桜。素晴らしい演技だわ。

紅葉

やっぱり私達演劇部には桜部長が必要だわ。

スミレ

桜部長、戻って来て下さい。

桜

私、戻ってもいいの。

紅葉とスミレ (声を揃えて)お願いします。

桜

ありがとう。皆ありがとう。

智子

ミス桜。ごめんなさい。私、あなたに酷い事しちゃったわ。

桜 智子先生。私こそごめんなさい。私、尚史先生の事

好きなんです。でも、智子先生の事も大好き。どう  
していいか分からないの。

智子 私にも経験があるわ。私達先生と生徒の間だけれど  
かけがえのない友達よ。難しい問題だけれど二人で  
のりこえていきましよう。

(二人抱き合う)

桜 智子先生。私、また学校に来ていい。

智子 それが…本当にごめんなさい。私、急いで授業料免

除申請書を持って理事長室に行ったんだけど、間に  
合わなかったの。あの掛川っていうミスアイロニー  
の腰巾着に突っぱねられて。(懐から申請書をだす)  
…そうなんだ(悲しそうに呟く)

桜 イアン 3 ちょっと見せてみなさい。(申請書を受け取る)

桜 この人誰。怪しいわ。

智子 よく知らない人よ。

イアン3 (専用の道具箱から修正液とペンを取り出し申請

書を偽装する)これで大丈夫。明日提出しなさい。

智子 締め切り日の日付が明日になってる。ありがとう。

えーと…

イアン3 イアンネムタイゼ三世です。

智子 ありがとうございます。イアンネムタイゼ三世さん。

地下室の奥の部屋を覗きに行っていた植池と中原が戻って来る。

植池 奥の部屋に子供の白骨死体が横たわっている。

智子 なんですって。

中原 トラの死体だ。何らかの理由でここで亡くなって誰にも発見されなかったんだろう。

智子

可哀想な子ね。親の都合でパリから見知らぬ国にやって来てずっと一人でマルクが来るのを待っていたのね。ちゃんと吊ってあげなきゃ。

紅葉が急に倒れる。

植池

おい、どうしたミス紅葉。具合でも悪いのか。

桜が倒れる。

イアン

おい、みんな早くここから出るんだ。低酸素状態だ。ミスメランコリーもきつと酸素欠乏症で亡くなったんだ。

意識を失った二人を抱えて全員部屋の奥の階段を登る

植池

ここは、我々が元いた洋館じゃないか。この真下に地下室があつたとは。長年気付かなかつた。

中原

防空壕だ。そういえば以前聞いたことがある。先々代が、大戦が始まる随分以前から作つてあつたんだ。この辺りは市街地から離れているため空襲を避けられたから、皆防空壕の存在を忘れてしまったんだ。

桜と紅葉が意識を取り戻す。

地響きが起こる

植池

なんの音だ。

智子

ブルドーザーだわ、こっちに来る。あ、ミスアイロニーがいる。

ミスアイロニー（真紅のドレスを着ている）約束の期限よ。

あなた方には、出て行ってもらうわ。嫌と言うなら強制執行いたします。

校長 お前こそ出ていけ。ここは俺達の学園だぞ。  
ミスアイロニー 致し方ありません。ネムネム前へ。

### ラッパー講師のネムネム登場

ネムネム (ラップを歌いだす)

ヨー、ヨー、俺はネムネム。ラップのビートにのせて講義するぜ。今お前らに抗議するぜ。ツイヤ、今すぐ出て行けここから植池。

この学園に居座る執念そろそろ観念

それでも居るならお前ら無理ゲー

ラスボス出る前にさっさと立ち退け。

中原 バトルをけしかけてきやがったな。受けてたつぜ。  
(前に躍り出る)

中原

ヨー、ヨー、ここは俺に任せろ。

ネムネムごときは直ぐにへろへろ。

マイクパフォーマンスは既にサドンデス

突然現れたお前らに愕然。

しかし百年続いたこの女学園

敵前逃亡は断然出来ねえ。

ネムネム

年寄りの冷水これぞ向う見ず

ライムがレベチでバースがバースト

強制執行速攻実行

居座る根性今度で最後

最高ですか。最高でーす

中原

最後通告過激な放言

慎め暴言守れ居住権

女学園の鐘の声

諸行無常の響あり

ネムネム！上を見る。

チャペルの鐘が鳴り響くなか、洋館のバルコニーに桜が青いドレスを翻して立つ。

桜

ミスアイロニー良く聞け。たとえ最後の一人になろうとも、セレブタリテイの友は、学園の自由と平等と博愛を守るため、この地を一步も退きはしないぞ。アンジヨルラス、僕もここに残るよ。

紅葉

桜 おお、同志グランテール。君は死を恐れないのか。

紅葉 恐れるものか。

スミレ 僕もだ。

桜 クールフェラック、君も共に戦ってくれるのか。

スミレ もちろんさ。

桜 頼もしき我が同志。共に歌おう。

三人、赤い旗を振りながら歌う

戦う者の歌が聞こえるか

鼓動があのだらみと響き合えば

新たに熱い命が始まる

明日が来た時そうさ明日が

「レ・ミゼラブル 民衆の歌」

智子 三人共立派よ。歴史に残る最高の舞台よ。こんな素

敵なレ・ミゼラブルを見たことがないわ。

理事長室のバルコニーに真紅のドレスを翻してミスアイ  
ロニーが立つ

アイロニー 私の娘、桜。やっと会えたわね。今からでも

遅くはないわ。馬鹿な真似はよしなさい。黙って母の元へ帰ってらっしゃい。

桜 嫌よ。あんたの所になんか行くものか。私は血も涙

もない獣の娘ではないわ。

アイロニー 親に向ってよくもそんな酷い事言ったわね。

本当に戻る気はないの。今ならまだ間に合うわよ。

桜 くどいわ。戻らないって行ってるでしょ。

智子 (独り言) 思い出したわ。ミスアイロニーが本当に手

に入れたいも、それはミス桜のことだったんだわ。

アイロニー …仕方がないわ、掛川！

掛川 はい。

アイロニー あの洋館を取り壊してしまいなさい。

掛川 了解。皆の者かかれ。

桜 敵兵がこちらへ来るわ。グランテール、クールフェ

ラック前へ。

グラんテールとクールフェラックが一步前へ出てライフル銃を構える。一糸乱れぬ二人の動きが美しい。

照明が消える

敵兵の怒号、鳴り響く銃声、ブルドーザーの轟音。

## ナレーション

関西屈指の高級住宅街、北阪神鈴姫台。豊かな自然と瀟洒な屋敷に囲まれた鈴姫台の丘の上に、まるで住宅街を見晴らかすかのごとく燦然とそびえ建つ白亜の殿堂。鈴姫台セレブタリティ女学園。この物語では一九八五年まで実在した格式と伝統を重んじる当学園について、当時の資料を元にできるだけ詳細に書き記す事にした。なお、本日御覧いただいた皆様方が、鈴姫台セレブタリティ

女学園についてインターネット及びその他あらゆる情報媒体を駆使してその存在を白日の元に曝そうとしても、徒勞に帰すであろう事を、予めご忠告申し上げよう。なぜなら、鈴姫台セレブタリティ女学園、そこは神秘のベールに包まれし白亜の殿堂。到底私達一般人にはうかがい知ることなど出来ない秘密の花園なのだから。

暗転

翌日

花壇 奥の方にボロボロになった洋館が見える。

植池と中原が学校を去ろうとするとところへ、尚史、智子、桜、紅葉、スミレ、イアン3が見送る。皆手や足に包帯を巻いている。

植池

皆見送りありがとう。新理事長のミスアイロニーの元でも、しっかり勉強に励むんだよ。

尚史

ここに残る事は出来ないんですか。

植池

会社为例えれば我々二人は役員のようなものだ。乗っ

取られた責任をとって辞めるしかない。が、心配ない、私達二人は教育委員会の計らいで島根県の南佐木村立小中高一貫校に赴任する事ができた。生徒数より教師の方が多い所だが、新転地でも未来ある子供達のために粉骨碎身努力するよ。

尚史

どうかお身体に気をつけて下さい。

校長

尚史先生、悪い事をしたな。私が美術のクラスを廃

止したばかりに：

中原

どうだね。私達と一緒に島根県南佐木村に来ないか

ね。

尚史

いや、遠慮しておきます。

スミレ あのだ…中原先生。

中原 どうしたスミレ君。

スミレ …ごめんなさい。私のせいで。

中原 何を言ってるんです。君のせいなんかではない。悪いのは僕だ。スミレ君はこれからも自分の信じた道を目指して頑張りなさい。（肩を叩こうとして、手を引っ込める）

スミレ はい。（笑顔で頷く）

植池 それじゃ出発しようか。

イアン3 が突然喋りだす。

イアン3 いったい幾らいるんです。この学校をミスアイロ

ニーから買い戻すために。

中原 君には関係のないことです。

イアン3 いや、参考までに聞かせて下さい。

中原　まあ、ざっと見積もって4億五千万円といったところだね。

イアン3　出発を三十分だけ待ってもらえますか。直ぐに戻ります。

イアン3退出

暗転

第3部　真贋のヒマワリ

新理事長室

ミスアイロニー　ゴッホのヒマワリねえ。有名な作品だけど、何でここにあるの。

イアン3　この構図のゴッホのヒマワリは、全部で七枚あり

ます。そのうちの一枚は芦屋に住む資産家が戦前に所蔵していました。

ミスアイロニー（掛川の方を向く）掛川！

掛川　事実ですミスアイロニー。ですがイアンザサード。そのヒマワリ、俗に言う芦屋のヒマワリは確か戦災で焼けたはずでは。

イアン3　…という事になってます。が、事実は違います。資産家が早くから疎開させてました。オーナーとして相應しい人が現れるまで親族が隠し持っておられたんです。

アイロニー　それはおかしいわ。私は絵画なんて興味がないもの。オーナーとして相應しいとは思えない。

イアン3　そこです。なまじ絵画に精通しておられない、が、あなたは、銀行家だ。それも非常に優れたバンカーだ。芸術作品を冷静な判断で価値を見定める事ができる。

コレクターの目ではなく、投資家の目で。

アイロニー なるほど、それで、幾らで売ろうとしてるの。

イアン3 4億5千万。

アイロニー 掛川！

掛川 真作であれば、少なくとも五十億円の価値はあるでしょう。

アイロニー 昨日、この男が持って来たミレーの作品はどうだったの。

掛川 阪神美術大学の小坂教授に来てもらって鑑定してもらいました。94%の確率で真作だと言っていました。

アイロニー 一応信頼はできるようね。ミスターイアン。一週間待ってもらえるかしら。鑑定してもらってから買うかどうか判断するわ。

イアン3 今すぐこの場でご判断願います。この絵を欲しいと言ってるコレクターが他にもいますので。

アイロニー 掛川！

掛川 特別融資枠から4億5千万円なら一時的に引き出せ

ます。

アイロニー もし贋作だったら。

掛川 この学園を売却すれば穴埋めできます。

アイロニー……ミスター・イアン。十秒だけ時間をもらえるかしら。

イアン3 どうぞ。

ミスアイロニーとイアン・ネムタイゼ三世が、ヒマワリのカンバスを間に挟んで向かい合って座る。

アイロニー イアン3の目をじっと凝視する。

イアン3 アイロニーの視線から目をそらさない。

十秒間の沈黙

アイロニー やめとくわ。

イアン3 そうですか。

アイロニー バンカーのやる事じゃないわ。これはギャンブラーのやることよ。

イアン3 わかりました。失礼いたしました。（カンバスを抱えて退出する）

## 暗転

## 花壇

植池 遅かったじゃないかイアンザサード。何をしていたんだ。

イアン3 すみません。

尚史 ハックシヨン。

中原 尚史先生。クシャミが酷くなってますな。医者に診てもらったほうがいい。

尚史 はい、そういたし…ハックション。

植池 変なクシャミだな。

智子 あなた大丈夫。

尚史 ああ、だ…だいじょ…ハ…ハ…ふーおさまった。

植池 とにかくもう出発しよう。

中原 皆元気だな。

植池と中原退場。皆で見送る。

智子 さ、ミス桜、ミス紅葉、ミススミレ、暗くなる前に

お家に帰りましょう。

紅葉 はい、智子先生。

スミレ ミスメランコリーに出会わない内に帰ります。

桜 ミスメランコリーって誰？

智子 あら、当の本人は全く知らないのね。

紅葉 何でもないわ。

スマレ 桜部長。帰りましょう。

三人歩いて退場。歩きながら桜が大声でセリフを語る

桜 我ら役者は影法師

紅葉 夏の夜の夢ね。

スマレ 負けないわよ。

三人声を揃えて

皆様方のお目がもし

お気に召さずばただ夢を

見たと思つて

お許しを

「夏の夜の夢より引用」

智子 私達も帰りましょう。

尚史 ハックシヨーン。智子さん。僕はイアンザサードに

話があるから、先に帰っていてもらえるかい。

智子 分かったわ。風邪引いてるんだから、早く帰って来てね。

尚史 直ぐに帰るよ。

### 智子退場

イアン3 私に話とはなんだ。

尚史 この間の事です。

イアン3 この間とは、

尚史 手を組もうと言う事です。

イアン3 ああ、あの事か。それならもういいんだ。忘れてくれ。

尚史 いや、やりたいんです。僕はあなたの事を誤解して

いました。

イアン3 誤解だって。

尚史 あなたはさっき、ミスアイロニーのところに行って、

あなたが最も大事にしている芦屋のヒマワリ…の贋作を売りに行ってたんでしょう。

イアン3 そんな事はしていない。ただちよつと忘れ物を取り

りに行ってただけだ。

尚史 そうやって否定するのがあなたの美学なんでしょう。

ともかく、僕はあなたからまだ色々と学びたい。あなたが先日言っていた、帝国美大を首席で卒業したにも関わらず恩師の大森画伯から君は贋作絵師に向いていると罵られたエピソードにも感銘を受けました。贋作絵師はともかく、名画の修復家なら、僕達二人で誰はばかる事なく堂々と商売していけるでしょう。

イアン3 尚史君、君はやはり自分の作品を書き続けることだ。

尚史 なぜです。僕は贋作絵師に向いていると仰ったじゃありませんか。

イアン3 だが、物事の真贋を見抜く眼力が備わってない。つまり純粹すぎるんだ。先日私が言ったエピソードは全て嘘だ。

尚史 え、嘘だったんですか。

イアン3 そうだ。

尚史 じゃあ、帝国美大を首席で卒業したのも。

イアン3 嘘だ。

尚史 大森画伯から贋作絵師に向いているって、言われたのも。

イアン3 そもそも大森画伯なんて奴はいない。

尚史 国立西洋美術館にあなたが手がけた贋作が2枚今だに展示されているのも。

イアン3 嘘だ。

尚史 贗作絵師にプライドを持っているというのも。

イアン3 ビジネスで仕方なくやってるだけだ。

尚史 そうでしたか：ハ：ハックシヨン。

イアン3 君は、私のようなつまらない男と仕事をするより自分の才能を信じて絵を書き続けることだな。

尚史 でも、僕には才能がないと：。

イアン3 何度も言わすな、それも嘘だ。私の見たところ、君には：よそう、私の言う事を信じるな。これは本当だ。

尚史 ハックシヨン。僕にできるでしょうか。

イアン3 自分を信じるしかない。選別にペンネームをつけてやるう。尚史ではインパクトがないからな。

尚史 ハックシヨン。

イアン3 その変なクシャミ何とかならないか。ん：ちよつと待てよ、今何か良い名前が頭をよぎったぞ。ハッ

クシヨーン…ハンクシヨーン…ハンクシヨーン…バン  
クシヨーン…パンクシー、パンクシーって名前はどう  
パンクシーですか。

だ。

尚史  
イアン3 そうだ。響きがいい。それに国籍や年齢などを不  
明にして謎を持たせるんだ。偉大なアーティストは  
例外なく謎に満ちている。

尚史 僕、パンクシーって名前で描き続けます。

イアン3 いつか君の贋作を私が手がける日が来るかもしれ  
ない。

尚史 ありがとうございます。

### イアン3退場

尚史 パンクシーか、なぜか勇気が湧いてきたぞ。早速  
家に帰って絵を描こう。

尚史退場

暗転

ステージの端の電柱の明かりが地面を照らす。そこにズタズタに引き裂かれた芦屋のヒマワリの贗作が捨てられている。

エピローグ

十年前

声のみの芝居

父　　クリスマススイブまで勉強させる事ないだろ。  
母（ミスアイロニー）　人の教育方針に口出ししないで。あな

母 父

父

母 父 母 父 母

たには関係ないでしょう。

俺の子供でもあるんだ。桜が可哀想だよ。

女作って家を放ったらかして出ていったくせに、娘の前でだけ理解のあるお父さんのように振る舞うのはやめて。

俺は子煩悩なんだ。ただお前とは子供に対する考えが違うんだ。勉強、出世、野心って、お前はそれで満足かもしれないが、桜にまでそんな過酷な人生を歩ませたくない。少しくらい楽しみがあってもいいじゃないか。

あなたは甘いだよ。全部桜の将来のためよ。

桜の現在の幸せを考えろよ。

そんな事が言いたくて、今日呼び出したの。

桜を引き取りたい。

：何言ってるのよ。あの馬鹿女の連れ子三人も引き取って、その上桜も引き取るですって。子供は物

父 母

じゃないのよ。桜の気持ちを考えてよ。  
考えたさ。家内も賛成してくれてる。家にいる子  
と分け隔てなく育てる。  
できっこないわ。桜帰るわよ。

席を立とうとする。

父 母 父

また、帰って勉強の続きかい。  
うるさいわね。ほっといてちょうだい。

桜、パパの家に帰ろう。今日は皆でクリスマスパー  
ティーだ。桜の分のケーキも用意してある。

お姉さん達も待ってる。みんな桜の事が大好きな  
んだ。

母

騙されちゃいけません桜。帰るのよ。こんな男の  
家に言ったら不幸になるだけよ。これまでたくさん  
の女を不幸にしてきたんだから。

父 母 桜 父 桜 父 桜 母 父

（ラッピングされた箱を桜に渡す）これはサンタからのプレゼントだ。良い子にしていたから、一足早く届いたんだね。

卑怯者。その手で、あの馬鹿女も騙したんだね。…昔の私の事も。

開けてもいい。

どうぞ。

フランス人形だわ。私が欲しかったやつ。どうして分かったの。

桜の事なら何でも知ってるよ。お前は俺の娘だからね。

嬉しい（フランス人形を抱きしめて嗚咽する）

こんな事で涙を流して喜ぶなんて、これまで相当苦労したんだろうね。

桜。そんなものの返して早く私と帰りましょう。明日は塾の模試があるのよ。寝過こしたら大変だわ。

桜。パパのお家においで。

ママ。：私パパのお家に行く。

：何言ってるの、ママと帰るのよ(桜の腕をとる)

痛い(手を振りほどく)

桜が嫌がってるじゃないか。

：分かったわ。好きにすれば。

ママ怒ってるの。

怒ってなんかいいわよ。

ママ、ごめんね。

：。

この人に何を言っても無駄だよ桜。生まれてから

これまで泣いた事がないんだ。銀行ではミスアイロ

ニーって渾名されてる。鉄と皮肉でできた心臓。所

詮、人の気持ちも、自分自信の気持ちも分からない

んだ。さあ、行こう桜。

薄暗い照明がつく

ミスアイロニーの家。ミスアイロニーが部屋に入ってくる。壁のスイッチを入れると部屋全体が明るくなる。部屋が手作りのクリスマス飾りで彩られてある。テーブルには小さな二人分のクリスマスケーキと、桜が欲しがつっていたフランス人形。ミスアイロニーが一人でテーブルに座る。

以下ミスアイロニーの妄想として母と娘の会話が会場に流れる。

ママ、これ何。

今日はクリスマスイブよ。二人だけでお祝いしましょう。

でも、お勉強はいいの。

桜 母 桜

母

今日だけは特別よ。でも、明日からはまたしつかり頑張りましょうね。

桜

うん。(テーブルの上のプレゼントに目をやる)これ、私が欲しいって言ってた。フランス人形。

大切にするのよ。

桜 母

ママありがとう。私、ママの事大好き。

部屋の照明が暗くなり、ミスアイロニーが静かに嗚咽しだす。暗くなった部屋でミスアイロニーのむせび泣く声が会場全体に響き渡る中、幕が閉じる。

ナレーション

夜も更けて来ました。どちら様も、お休みの前に火の元戸締まりを今一度お確かめの上、ごゆっくりおやすみ下さい。また明日も、当劇団のお芝居でお楽しみ下さい。

白亜の殿堂 セレブタリティ女学園物語

シーズンー ヤカラの品格

完

シーズン2へ…続かない。

あなた やっぱり続かんのかい。

注

最後までお読みいただきありがとうございました。お察しの方もおられるかと思いますが、作中のラップは、一部今井メロさんの名作「メロラップ」より引用させていただきました。

運営より問題ありとの指摘を受けた際は、自作のラップに編

集しなおす予定ですが、小生のごとき凡才は今井メロさんの才能の足元にも及ばないため、このまま使用させていただく事を切に願います。





のない

見つめ合う二人

智子



ミス雪乃

と家  
を

o



I









り

校





